

令和5年度
新地町教育要覧

新地町の教育



新地町教育委員会

新地町民憲章

1. ふるさとの海と山を愛し、美しい町をつくります。
1. 互いに助け合い、心の豊かな町をつくります。
1. 健康でしごとにはげみ、希望に満ちた町をつくります。
1. としよりを敬いこどもを愛し、明るい町をつくります。
1. 郷土の歴史を大事にし教養を高め、文化の町をつくります。

目 次

I	町勢概況	1
1	新地町の概要	
2	新地町の人口・世帯数	
3	位置・面積・アクセス等	
II	教育行政	2
1	教育委員	
2	教育委員会事務局組織及び事務分掌	
3	教育委員会組織機構図	
4	令和5年度教育予算	
III	教育目標と重点事項	5
1	令和5年度教育目標	
2	新地町教育関係主要事業	
3	新地町教育委員会の施策と「新たな教育振興基本計画」の関連	
IV	学校教育	18
1	児童・生徒数	
2	教職員数	
3	学校医等	
4	学校評議員	
5	校長会・教頭会	
6	新地町教育研究会	
7	児童生徒数の推移	
8	小・中学校施設	
V	文化財	22
1	新地町の歴史的特色	
2	指定文化財	
VI	生涯学習・社会教育	24
1	新地町社会教育委員・新地町公民館運営審議会	
2	生涯学習・社会教育事業	
3	社会体育（スポーツ）事業	
4	社会教育・社会体育施設	
VII	図書館	33
1	図書館施設概要	
2	蔵書資料	
3	図書館利用者カード登録者数	
4	新地町図書館協議会委員	
5	令和5年度事業計画	
VIII	関係団体	37
1	新地町文化協会	
1	新地町スポーツ協会	
3	総合型地域スポーツクラブ	
4	新地町スポーツ少年団	
IX	新地町教育の沿革	40

I 町勢概況

■ 1 新地町の概要

本町は、福島県の北東端に位置し、北は宮城県山元町、西は宮城県丸森町、南は相馬市、東は太平洋に接しています。

町内には、新地貝塚、三貫地貝塚、新地城跡を始めとした数多くの遺跡や史跡が分布し、年代ごとに特色のある歴史を築いてきました。天正17年(1589年)5月、伊達領となった後は、しばらく平穏な時代を経て、明治維新を迎えました。

明治5年には、人材育成の重要性を察知した目黒重真らにより学制発布に先立ち、小学校(観海堂)を設立し、教育振興の基礎が築かれ、その理念は今でも受け継がれています。

明治22年の町村制施行により、福田・新地・駒ヶ嶺の3ヶ村が誕生し、その後、昭和29年に3ヶ村が合併し、新地村となり、昭和46年に町制を施行し、現在の新地町となりました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災(地震・津波)は、新地町に未曾有の被害を及ぼし、かけがえのない多くの生命、財産を奪いました。さらに福島第一原子力発電所の事故は、12年の歳月を経た現在も風評被害等を含め、農林水産業への被害が残っております。

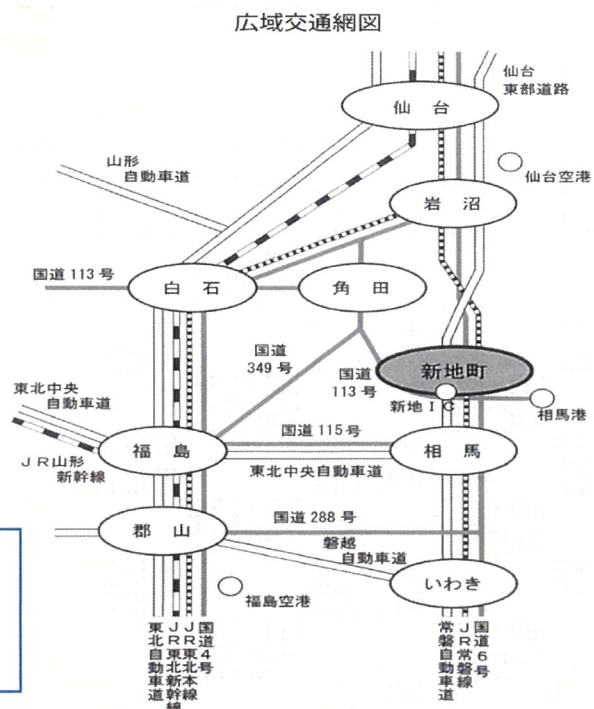
町の復興・創生にあたっては、町民の安全・安心を基本として、命と暮らしを最優先に、災害に強い町づくりに向けて、着実に復興が進んでおります。

■ 2 新地町の人口・世帯数

令和5年4月1日現在

区分	人口(人)			世帯数
	男	女	計	
住民	3,859	3,804	7,663	2,946
前年比	△43	△101	△144	225

■ 3 位置・面積・アクセス等



位置: 東経 140 度 55 分 北緯 37 度 52 分
 面積: 46.70 km²
 町域: 東西 約 7.2 km 南北 約 6.5 km

II 教育行政

■ 1 教育委員

令和5年4月1日現在

職名	氏名	最初の就任年月日	任期年月日	通算
教育長	佐々木 孝司	平成25年10月1日	令和5年9月30日	9年6月
教育長職務代理者	高崎 義典	平成20年10月1日	令和6年9月30日	14年6月
委員	小林 成子	平成29年10月1日	令和7年9月30日	5年6月
委員	田村 民雄	令和元年10月1日	令和5年9月30日	3年6月
委員	名取恵美子	令和4年10月1日	令和8年9月30日	0年6月

■ 2 教育委員会事務局組織及び事務分掌

課名・係名・職名		氏名	主な事務内容	
教育 総務課	教育総務課長	木幡 邦枝	課総括	
	副主幹兼課長補佐	黒沢 知子	課長代決等に関する業務	
	総務 学校係	主任主査兼総務学校係長	本田 喜孝	学校教育・学校教育施設全般に関する業務
		指導主事(任期付)	佐藤 和子	学校教育・教育の情報化・ICT教育等に関する業務
		指導主事(任期付)	松本 一宏	学教教育全般・教職員の人事等に関する業務
		主査	佐藤 祐太	文化財・史跡・町史等に関する業務
		主事	大河内美穂	学校の福利厚生・系の庶務に関する業務
		生涯 学習係	生涯学習係長兼公民館長	黒沢 知子
	副主幹兼文化交流センター長		塩沼 亮一	芸術文化進行・文化交流センターの管理運営全般に関する業務
	副主任用務員(再任用)		長塚 忠一	社会教育施設・施設周辺環境整備に関する業務
	副主査		野地 佑介	社会教育・施設管理に関する業務
	副主査		林 重貴	社会体育振興に関する業務
	副主査		加藤 千夏	家庭・青少年教育・公民館教室・男女共同参画に関する業務
	図 書館	管理係	主事	社会体育・国際交流・系の庶務に関する業務
			図書館長(会計年度任用)	渡部 和秋
副主幹兼管理係長兼司書			佐藤美千代	図書館の事務事業全般に関する業務
		主任司書	高橋 裕美	図書館の司書全般に関する業務

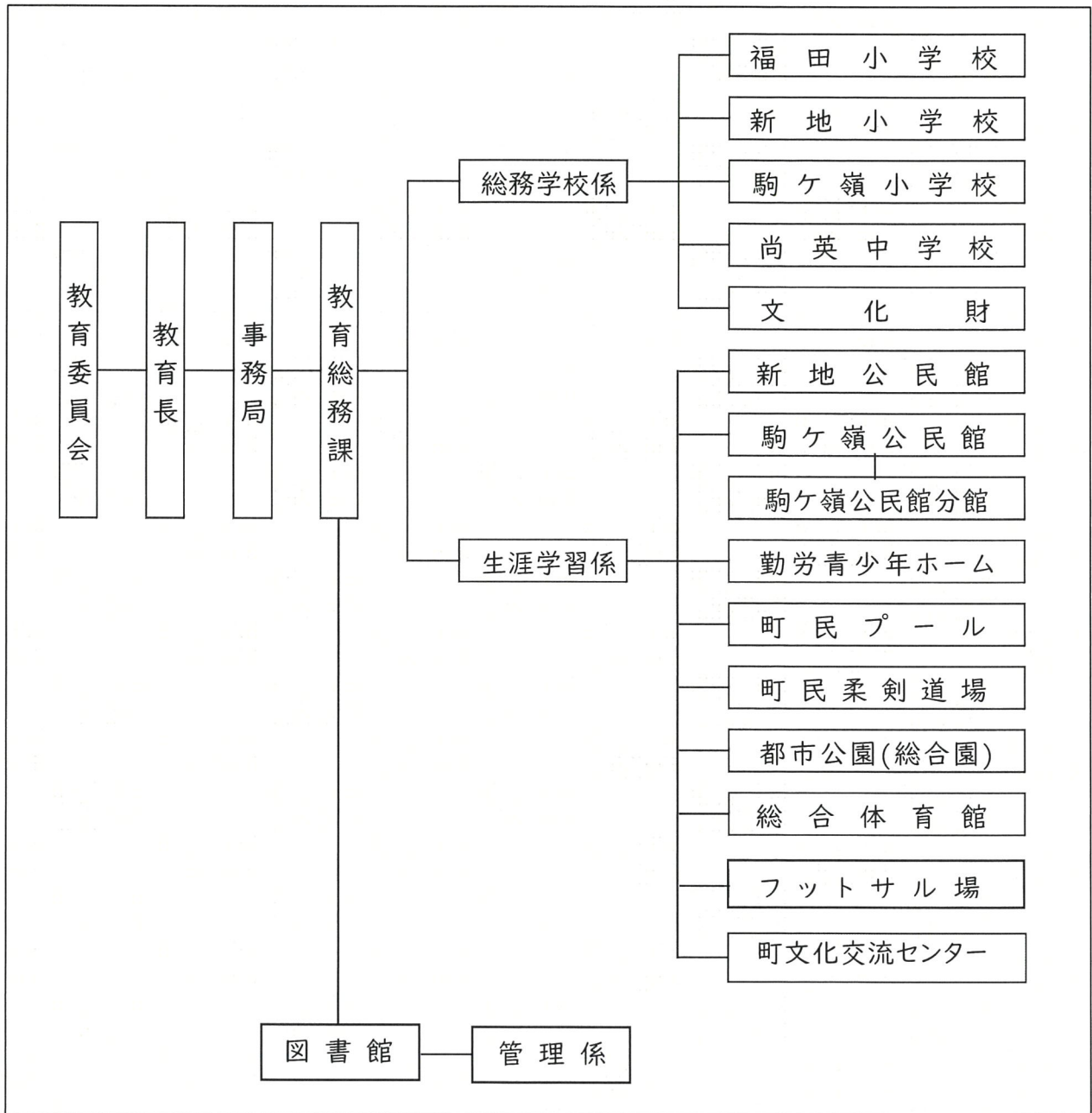
【ICT を活用した思考を深める意見交流】



【ICT を活用した本時の振り返り】



■ 3 教育委員会組織機構図



【新聞を活用した授業】



【ICTを活用した学習内容の共有】



■ 4 令和5年度教育予算(当初一歳出)

款	項	目	金額(千円)	比較増減(R4年度)
教 育 費	教育総務費	教育委員会費	28,477	△1,025
		事務局費	163,309	△2,278
		外国人招致事業	4,844	△180
		小計	196,630	△3,483
	幼稚園費	教育振興費	3,354	0
		小計	3,354	0
	小学校費	学校管理費	61,816	17,713
		教育振興費	10,838	△399
		小計	72,654	17,314
	中学校費	学校管理費	26,018	2,852
		教育振興費	10,796	△1,267
		小計	36,814	1,585
	社会教育費	社会教育総務費	5,361	441
		公民館費	91,131	22,647
		文化財保護費	8,147	7,180
		発掘調査費	588	0
		図書館費	47,400	7,243
		文化交流センター費	31,653	1,633
		小計	184,280	39,144
	保健体育費	保健体育総務費	10,561	1,678
		小学校給食費	34,368	△978
中学校給食費		17,016	2,701	
町民プール費		6,586	△1,384	
柔剣道場費		507	0	
総合体育館費		20,224	1,074	
フットサル場費		2,017	△80	
小計		91,279	3,011	
合計			585,011	57,571

★ 令和5年度教育予算に占める歳出項目の割合上位5項目

- ① 事務局費 27.9%
- ② 公民館費 15.6%
- ③ 小学校管理費 10.6%
- ④ 図書館費 8.1%
- ⑤ 小学校給食費 5.9%

Ⅲ 教育目標と重点事項

■ 1 令和5年度 教育目標

「夢を育み 可能性を伸ばす」

観海堂の建学精神であった広い視野と深い思慮を礎として、笑顔と活力があふれる故郷の創造を図ります。

【基本方針】〔新地町教育大綱・第6次新地町総合計画〕

- 1 子どもたちが知性や感性を育み、このVUGAの時代を力強く生き抜くために先進的且つ充実した学習環境を提供し、学校教育と家庭教育への支援を行う。
- 2 新地町民が「Well-being」を実現していくために各研究機関や大学及び民間等の力を幅広く活用し、学校教育と生涯学習の充実を図る。

I 特色ある教育活動の推進

1 学習環境の充実と多様な学びの提供

- ICTを基盤とした先端技術を活用して、一方通行・画一的な授業等から「個別最適な学び」と「協働的な学び」への変革を一体的に推進することにより、「主体的・対話的で探求的な深い学び」の充実と、「VUCA」の時代とも言われる変化の激しい社会を「生き抜く力」を身につけることに努める。
- タブレット端末の持ち帰り学習や、家庭学習用テキスト「小学生の知恵袋ち・か・ら」を活用し、家庭と連携しながら家庭における学習習慣及び基礎・基本の定着を図る。
- ICT支援員や学習支援員を配置したり、地域の人材や外部講師を積極的に活用したりして、児童生徒へのきめ細かな学習支援の一層の充実を努める。
- 科学的リテラシーの定着を大切に、探究・STEAM 教育、文理横断・文理融合教育等を推進するため、環境教育や防災・放射線教育、安全教育などを体験的に学んだり、SDGsの視点で学習したりする活動を通して、グローバルな視野に立って考える態度、並びに危機回避能力を身につける。
- 児童生徒の情報活用能力育成のため、教師のICT活用・指導力の向上を図る一方、働き方改革の推進のため、教育DXの推進に向けた環境整備等を進める。

2 地域とともにある学校づくりの推進

- 家庭教育支援の充実により、学校・家庭・地域との連携を強化し、地域の人材や団体等を活用しながら郷土の歴史や文化を学んだり、体験活動や社会奉仕活動、自然体験活動などの充実を図ったりすることで学校・家庭・地域を大切に作る人材を育成する。
- 大学や地元企業等と連携してグローバルな視野を身につけさせるとともに、連携の機会を生かして教育活動の活性化を図る。

3 心身の健康増進と心の教育の推進

- 学校給食に地場産物を積極的に活用したり、食育を推進したりすることを通して、食に関する自己管理能力の育成と健康課題の解消を図るとともに、「感謝の心」「郷土愛」の育成に努める。
- 健康の保持増進や体力の向上に主体的に取り組めるよう、地域でのスポーツや交流を通じた心身の健康を増進する教育活動の充実を図る。
- 「Well-being」の視点を大切に、SCやSSW・SSRを活用して不登校や心に不安を抱える児童生徒の学習機会の確保と将来の社会的自立に努める。

- 支援を必要としている児童生徒の長所・強みに着目することを重視し、共生社会の実現に向け、可能性を引き出すよう、きめ細かな指導に努める。

II 生涯学習・ボランティアの推進

1 生涯学習の総合的推進

- 持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館事業の活性化と機能強化を図り、新地町民の活躍機会の拡充を目指す。
- 各種教室や講座の充実と、団体・グループ活動の支援に努めるとともに、企業や大学、各種団体との連携による事業の充実を図る。
- ボランティア団体及び個人ボランティアの相互連携を図る。
- 学校教育におけるボランティア体験の機会の拡充や、町社会福祉協議会と連携したボランティアの育成・支援に努め、町民誰もが地域社会の担い手となることを目指す。

2 芸術文化活動の推進

- 新地町文化交流センター等を活用して、芸術文化をとおした交流の場の提供や小中学校との交流、情報の発信を行う。
- 芸術文化団体の自主的な運営による活性化を支援する。
- 郷土ゆかりの芸術文化人の作品等の展示を通して、町の芸術文化の活動を紹介する。

3 読書の町づくりの推進

- 多様なニーズに応える施設づくりと、大人から子どもまで幅広い年代が身近に感じられる図書館づくりを推進する。
- 資料や事業の充実を図り、自らの学びや郷土愛を育む力を育てる本や、映像・音楽・電子資料などに触れる機会を提供する。
- 「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を推進する。

III 文化・スポーツの充実

1 歴史文化活動の推進

- 文化財や歴史書などを文化資産として、幅広い視点からの調査研究を推進する。
- 学校教育においては、小冊子「新地町の文化財」や小学校社会科副読本「わたしたちのまち新地」を活用し、郷土の歴史文化の学習から郷土愛を育む。
- 学校教育に限らず、ふるさと行事や昔話を継承するなど、地域への誇りと愛着を育む学びを推進する。

2 生涯スポーツ活動の推進

- 子どもの肥満防止、高齢化社会における介護予防、若者の出会いの場の創出などを踏まえた生涯スポーツ活動の充実を図る。
- スポーツに関連する事業の支援として、各種教室や講座の充実、スポーツ団体・グループ活動の活性化を図る。
- スポーツ活動の支援に適した人材を発掘し、生涯スポーツ活動事業に活用する。

- スポーツ推進委員による生涯スポーツ(ニュースポーツなど)の普及・啓発活動を行う。
- 人生100年時代に生涯にわたって学び続けることにより、健やかで豊かな心身を育成する。

令和5年6月16日の新たな教育振興基本計画の閣議決定を受け、「令和5年度 教育目標」を令和5年6月30日の定例教育委員会にて変更承認いたしました。

※ 「VUCA」: ブーカ

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字4つを取って「VUCA」の時代とも言われています。

※ 「Well-being」: ウェルビーイング

経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方です。

※ 「STEAM 教育」: スティーム教育

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)を統合的に学習する「STEM 教育(ステムきょういく)」に、Arts(リベラル・アーツ)を統合する教育手法です。Artsとして人文社会科学、芸術領域が入ります。

※ 「教育DX」: 教育デジタル・トランスフォーメーション

デジタル技術を用いて教育現場をより良く変革すること。ICT教育とは異なり、教育DXは教育の手法や手段、教職員の業務等を変革させる「教育そのものの変革」に重点を置いています。

■ 2 新地町教育関係主要事業

(1) 奨学制度

町内に住所のある方で、奨学資金の必要な方に対して奨学資金をお貸しします。

ただし、国県や他の団体からの奨学金の貸付等を受けていないことが条件です。また、2名以上の連帯保証人(町内在住:原則)が必要です。

奨学金の返還は、貸付けを受けた月数の3倍の期間(ただし最大15年)内に奨学資金の総額を月賦返還(全部又は一部の一時返還も可)になります。

令和3年度より、奨学資金の返還年額の相当額(最大18万円)を助成し、町で暮らし働く若者を支援しています。

<奨学資金貸付>

担当課:教育総務課

種 別	貸 付 金 額
大学・短大以上の在学者	月額 30,000 円
高専・専修大学(2年以上)の在学者	月額 20,000 円
高校の在学者	月額 15,000 円

(2) 文化財保護

- ① 指定文化財をはじめとする史跡・文化財の保護・管理・調査
- ② 開発等で失われる恐れがある遺跡・文化財の調査・記録保存
郷土史研究会等団体との連携を基に歴史・文化財に関する講演会・展示会等の実施

(3) 生涯学習・社会教育・社会体育

① 青少年教育事業

少年の主張大会、「十七字のふれあい」作品募集、二十歳のつどい、
姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会、読書活動ボランティア支援事業

② 社会教育・生涯学習応援事業

各種教室、生涯学習フェスティバル、職員出前講座、家庭教育学級、文化協会への支援

③ 男女共同参画推進事業

男女共生のつどい、男の料理教室

④ 社会体育・スポーツ事業

スポーツ少年団、スポーツ協会、ニュースポーツ教室、自然体験ハイキング、町民プール、
市町村対抗駅伝大会、市町村対抗軟式野球大会、市町村対抗ソフトボール大会、
総合型地域スポーツクラブ

(4) 図書館活動

① 子どもの読書活動推進計画に基づき、読書活動を推進する。

読み聞かせ会、ブックスタート事業、各学校施設内新地町図書館コーナー設置事業、
読書感想画コンクールの実施、各種体験学習の受け入れ、保育所・児童館との連携

② 各種ボランティア団体と連携し、資料利用拡大を図る。

読み聞かせ等の資料相談、各学校・施設内に配置する図書の選書や配本、郷土視聴覚資料の活用

③ 各図書分類を精査し、利用しやすい配架・展示を行う。

選書会、図書の常時企画展示

④ 読書講習会等の開催、視聴覚室での展示・行事実施

(5) ICT活用教育

① 新地町 ICT 活用教育研究テーマ

ICT の活用をとおして、情報活用能力を生かし課題を解決できる児童生徒の育成

② 方針

各教科での学びの支えになる力や生涯学び続けるために必要な力である情報活用能力の育成をとおして、変化の激しい社会を生き抜くために身につけなければならない4つのスキルの定着を目指す。



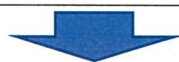
③ ICT 活用教育研究テーマについて

○ 情報活用能力について(3年目の取組)

※ 情報活用能力アンケート結果から、新地町の児童生徒には高い割合で能力が身につけていることから、一人一台の ICT 環境と ICT を活用した授業実践を行うことで、さらなる情報活用能力の育成と、これからの社会で必要とされる4つのスキル(対話・協働・創造・論理的思考)の定着を目指す。

<具体的な内容>

- ・情報活用能力体系表や単元配当表、年間指導計画等を自校化する
- ・9年間を見通した段階的な育成を図る
- ・新地町における育成すべき情報活用能力6つを意識した授業を展開する
 - ① 収集する力(情報収集)
 - ② 整理する力(情報整理)
 - ③ 分析する力(情報分析)
 - ④ 表現する力(言語表現)
 - ⑤ 改善する力(振り返り)
 - ⑥ 参画する力(モラル)



I:各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成を図る

II:育成した情報活用能力を発揮させる場面を設定する

III:主体的・対話的で探究的な深い学びへつなげる

→【対話】【協働】【創造】【論理的思考】4つのスキル

④ テーマの捉え方

◎ 情報活用能力育成の3年目となることから、確実な定着を図ることをテーマとする。

- ・町の学力向上と関連した取組とする。→「新地町学力向上アクションプラン」
- ・新地町小中連携学力向上推進協議会との連携
- ・育成すべき6つの力を位置づけた授業実践→ICT活用発表会での授業公開

⑤ 新地町 ICT 活用発表会【令和5年11月10日(金)】

◎ 日程等(案)

10:20～ 公開授業 福田小学校・駒ヶ嶺小学校(それぞれ3つの授業を提供)

福田小学校「自ら進んで学び続ける子ども」～日常的なICTの活用による情報活用能力の育成を目指して～

駒ヶ嶺小学校「言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうあれば良いか。」～ICTの活用による言語活動の充実を目指して～

11:15～ 意見交流会

12:15～ 昼食・移動

13:15～ 公開授業 新地小学校・尚英中学校(それぞれ3つの授業を提供)

新地小学校「主体的・対話的で探求的な学びへとつながる授業の工夫」～効果的なICT活用のあり方を通して～

尚英中学校「対話を通して学び合いながら、自己の思考過程をまとめ表現できる生徒の育成」～各教科の学びを支える情報活用能力の育成を通して～

14:20～ 意見交流会

15:15～ 講演会

(6) 食育推進事業

① 新地町さわやかだ食育推進事業テーマ

新地の子どもは「さ・わ・や・か・だ」(今年度も継続)

「新地の子どもは『さ・わ・や・か・だ』」をスローガンに、学校・家庭・地域の連携・協力による食を中心とした生活習慣の改善と健康課題の解消を図る。

※ 「さ」は魚、「わ」は和食、「や」は野菜、「か」は海藻、「だ」は出汁・大豆を意味する。

② 事業目標

食育を通して、食に関する自己管理能力の育成及び望ましい食生活の定着を図り、肥満や栄養バランスの偏りなどの健康課題の解決を図るとともに、「感謝の心」「郷土愛」を育む。

(ア) 「さ・わ・や・か・だ」で始まる健康的な食材や料理を見直すことなどを通じた食育を推進することで、健康課題の解決を図る。

※ 「さ・わ・や・か・だ」は、東京家政学院大学の原光彦教授(二本松市出身 医師)が小児肥満患者の食生活改善のために提唱している「さわやかダイエット」を参照している。

なお、原教授には、本事業の推進委員として直接ご指導をいただいた。

(イ) 「さ・わ・や・か・だ」を取り入れた和食型食事の普及により、コロナ禍と2度に渡る福島県沖地震以降、増加に転じた肥満傾向児の解消を図る。

(ウ) 地元産の野菜・魚介類の積極的な活用により、地場産物のよさを見直し、郷土愛の育成につなげる。

(エ) 食に関する指導や食育講座を通して、みそ汁(汁物)のよさを理解し、高学年児童が家庭で調理できるようにする。また、みそ汁(汁物)の基本であるだしの良さを体験し、減塩意識につなげる。

(オ) 保護者に対して「さ・わ・や・か・だ」及び地場産物活用の良さを啓発することで、町食育推進計画と関連を図りながら、根強い風評被害の払拭と健康的な食習慣の定着を図る。

(カ) 各小中学校間での個別健康指導データの連携及び生活習慣病予防健診結果の経年追跡により、食育事業の効果と健康な身体づくりに関する変容を検証する。

(キ) 「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアとの適切な付き合い方」について、町食育広報「食育しんち」等で啓発していくことで、保護者の実践意欲を高め、児童生徒にとって望ましい生活リズムの定着を図る。

③ 事業内容

(ア) 平成29年度から3年間取り組んできた文部科学省「つながる食育推進事業」の実績を踏襲し、学校・家庭・地域が連携・協力しながら食育を推進する。

(イ) 栄養教諭が核となり、町内全小中学校の食育推進コーディネーター及び保健主事・養護教諭が連携・協力しながら町全体で食育事業に取り組む。

(ウ) 「さ…魚、わ…和食、や…野菜、か…海藻、だ…だし・大豆」のよさを理解させるとともに、各家庭でも積極的に実践できるような食育講演会や食育講座、食育に関する指導等を展開する。

(エ) 町内外の各関係機関、食に関する専門家、大学等と連携し、食育推進事業の目的や取組内容を明確にして成果を検証する。

(オ) 食育を健康教育と関連させ、専門家監修による運動あそびや肥満傾向児向け健康体操を導入したり、学校や家庭での運動の機会を呼びかけたりすることで、日常的に積極的に体を動かそうとする健康意識の向上と1日60分以上の身体を動かさず習慣(ふくしまっ子児童期運動指針:県教委策定)の定着を図る。

(カ) 生産者など地域の人材と連携して食物を育て、収穫する喜びと満足感を味わわせることで、地域の食材への関心と郷土愛を高める。



- (キ) 地域の専門家が持つ高い見識と調理技能を生かし、味覚、嗅覚、視覚等の五感を働かせながら直接体験する活動を通して、児童生徒一人一人の食への関心を高める。
- (ク) 「学校給食 in しんち おすすめレシピ集」「しんちの食育」を作成して活用を図り、主体的に食べ物を選択する力や食べる力、食をつくる力の育成を図るとともに、家庭・地域等への情報発信により積極的な連携を図る。

④ 主な実践事項

- (ア) 「さ・わ・や・か・だ」を意識した食育講演会及び食育講座、食に関する指導の充実
- (イ) 食育講座や食育講演会の内容を学校及び教育委員会ホームページに掲載することによる食育への理解と啓発
- (ウ) 生活リズム「早寝・早起き・朝ごはん」や運動習慣の改善につながる保健指導や食に関する指導の推進
- (エ) 肥満傾向児（適正体重の20%以上）に対する個別の健康指導の徹底
- (オ) 「学校給食 in しんち おすすめレシピ集」「しんちの食育」の配付による保護者との連携
- (カ) 町食育広報「食育しんち」による保護者への啓発
- (キ) 各種コンテストへの参加促進
 - ・ ふくしまっ子ごはんコンテスト
 - ・ さわやかだ わが家のおすすめ料理コンテスト
 - ・ 町十七字のふれあいコンテスト(食育部門)



1 スーパー食育スクールの思い出

指導主事 松本 一文

冒頭から私事で恐縮ですが、私は、平成23年度～平成26年度に商業中並びに新地町教育委員会にて教育業務の一環に携わらせて頂きました。

その時の思い出の一つが、10年間の平成26年度に採択された新地町内小中学校4校による「文科省：スーパー食育スクール事業(※)」です。震災からもないこともあって、**原発事故の影響による根強い風評被害と、野外活動や集団登校自粛に伴う肥満傾向児の出現率の高さ等、「健康」や「食育」にかかる問題が山積していました。**これらの課題解決に向けて、町内小・中学校が保護者や地域の皆さまと一体となって本事業に取り組みしました。

具体的には、**栄養教諭による町内4校での日々の食育指導、栄養教諭や保健主事による保健指導を充実させつつ、食育講座(9回)、食育講演会(8回)の開催、**加えて「**充実した食育**」には家庭の協力が不可欠ですから、**啓蒙の意味も込めて給食レシピ集(全児童生徒配付)、食育パンフレット(新地町内全戸配付)に**添着しました。

このときの、食育講演会の内容を以下に記述させていただきます。

- 放牧産と地場産物の観点から
 - 「食と放射能・福島産の食材活用」、「安全でおいしいリンゴ」
- 肥満傾向児が多く出現し、健康に関する観点から
 - 「和食は素晴らしい!」
 - 「食とスポーツ、適正体重維持とその管理方法」等について、**福島県大教授の坪倉正治先生、東京農業大学名誉教授 小泉武夫先生、競輪選手として活躍される一方、ロンドン・東京オリンピック出場の新田地大選手等、**いずれも一線級の素晴らしい講師の方々から、ご講演を頂きました。
 - さらに、**食育講座では、「地場産物として有名なトマトを活用したイタリアン料理」「新地町産食材の加工品を味わおう(イチジク、ニワ等の活用)」「新地まるごと給食、」**「**植物から取れる糖と味・手軽にできる和菓子、「ダン」とは何か**」等、**地元講師の皆さまが、こども達の実態を的確に捉えつつ、魅力的な地場産物のレシピの提供と、食生活の乱れに伴う塩分や摂取カロリー過多等、健康面での課題解決の観点から、アイデアを駆使して講座を受け持ってくださいました。**

今でこそ、当たり前となりましたが、**町内各校とWeb会議システム**で結び、**同時開催する等、全国に先駆けた先進的な取組を**実践しておりました。

この時の成果については、**次回に**詳しく書きますが、**昨年度末に配付しました給食レシピ集が「第9巻」**です。この、**本事業終了後も町内では栄養教諭が中心となって、「新地町ならではの食育」が脈々と引き継がれてバージョンアップされた**こと、嬉しく思っております。「巻10巻」についてもご期待ください。

【スーパー食育スクール事業(平成26～28年度)】
 栄養教諭を中心に外部専門家等を活用しながら、**予め具体的な目標を設定した上で、**大学、企業、行政機関(農林、保健所等)、生産者等と連携し、**児童・生徒の食育を通じて**学術上、健康増進、地産地消の推進、食文化理解、国際交流など、**食育の多角的効果について科学的データに基づいて検証を行い、食育の一層の充実を図る事業。**



〈 児童生徒 〉

自己管理能力及び郷土愛の育成

- バランスの良い食事をとる力(食べる力)
- 健康に良い食べ物を選択する力の育成
- 和食を中心とした食文化への理解
- 規則正しい生活リズム・日常的な運動習慣の定着
- 食に対する感謝の心や郷土愛の醸成

〈 学校・保護者・地域 〉

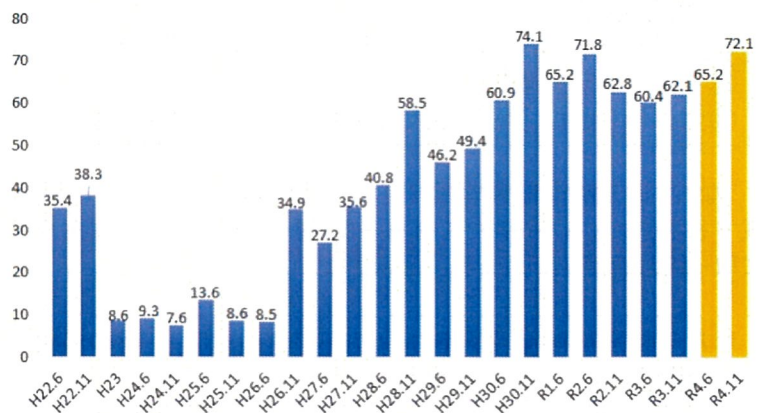
地場産物への理解及び食の復興

- 地場産物を取り入れた学校給食の充実
- 家庭での地場物活用率の向上
- 根強い風評被害の払拭

【新地町の地場産物の活用率】

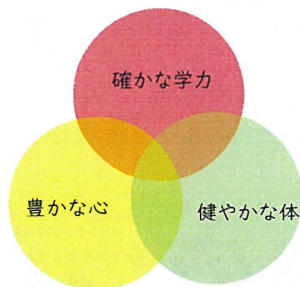
新地町の学校給食での地場産物の活用率は、震災後、しばらくは1ケタの状況となりましたが、現在は、年間をとおして6割を超えます。

県の目標値の40%を平成28年度から毎年達成しています。昨年度実施した「食育アンケート」では、家庭での地場産物の活用率も年々増加傾向にあり、「農産物」は9割以上、「魚介類」は8割以上が「よく使用している」「時々使用している」と回答しています。



■ 3 新地町教育委員会の施策と「新たな教育振興基本計画」の関連
 [新たな教育振興基本計画の5つの基本方針]

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話



小中学校段階で育成する3つの要素

新地町教育委員会では、新たな教育振興基本計画と関連させて教育事業を展開しています。
 以下にその関連と取組について表記します。



教育基本法を普遍的な使命としつつ、新たな時代の要請を取り入れていく「不易流行」の考え方を基調とした「新たな教育振興基本計画」では、児童生徒一人一人が将来の予測が困難な VUCA の時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)を乗り越え、それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるウェルビーイングを実現していくことが求められている。

その基盤として「真の学ぶ力」を身につけることが不可欠となる。

先の第三期教育基本振興基本計画では教育再生実行会議(第8次提言)において、教育投資の効果や社会が抱える課題を踏まえ、これからの時代に必要な教育投資について、「(1) 全ての子供に挑戦の機会が与えられる社会を実現する、(2) あらゆる教育段階を通じて「真の学ぶ力」を培う、(3) 「真の学ぶ力」を基に、実社会で活躍できる資質・能力を育成する、(4) 学校が地域社会の中核になる」との4つの観点が示されている。

「真の学ぶ力」については
 先を見通すことの難しい時代において必要とされるものは
 社会で自立して活動していくための「真の学ぶ力」であり、
 具体的には次の「学力の3要素」を育むことであるとされている。

- ①知識・技能の習得
- ②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

なお、第三期教育基本振興基本計画においては、目標1「確かな学力の育成」として真の学ぶ力を構成する要素となる「子供たちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度を育成する。」と示されている。

新たな教育基本振興基本計画においても、目標1「確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成」とその中心軸は継承された。

本町の教育目標についても同じ方向性(※特に基本方針①②と深く関連)を示すこととしました。

【新地町教育目標】

夢を育み可能性を伸ばす



未来を担う新地町の子どもたちが、将来の予測が困難な VUCA の時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）を乗り越え、個人と社会のウェルビーイングを実現するために、広い視野と、深い思慮を礎に、社会の変化を前向きに受け止め、人間ならではの感性と、言語感覚を磨きコミュニケーション力を機能させ、現代社会の課題解決につながる新たな価値観や行動力を生み出す力の育成を目指す。

〈5つの基本方針と町・教育委員会の施策との関連〉

- 1 グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
 - (1) ICT活用を軸とした「主体的・対話的で探究的な深い学び」の視点からの授業実践
 - (2) STEAM 教育の視点による学社連携授業
 - (3) 外国語活動、外国語科、英語科の充実に資するALTの配置
 - (4) 明治大・東京大、地域企業との連携による地域・産学官連携、キャリア教育
- 2 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
 - (1) 「Well-being」の視点を大切にしたSCやSSW・SSRの活用と学習機会の確保
 - (2) 児童生徒の自己実現を支援するタブレット端末の持ち帰り学習による家庭学習の充実
 - (3) ICT活用を軸とした児童生徒一人一人に最適化された教育内容、教育環境の整備
 - (4) 学習支援員、介助員の配置等による特別支援教育の充実
 - (5) 児童生徒等の心身の健やかな育成に向けた充実した食育指導、スポーツ活動、美文朗唱の活用や豊かな感性を育む読書活動の推進
 - (6) 「わたしたちのまち新地」を活用し、新地町の産業、文化、歴史、エネルギー施策等の特質を学び郷土愛を育む地域学習の充実
- 3 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
 - (1) 新地町主催十字のふれあい（ICT・食育部門）や少年の主張大会の実施
 - (2) 公民館や図書館、文化交流センター等の機能強化
 - (3) 自らの向上や地域社会への貢献の意欲を持った地域社会の担い手を育成する生涯学習の推進
 - (4) 自他の心情・生命・権利を尊重し、デジタル社会を生き抜く情報モラル教育
 - (5) 自ら危険を予測して回避したり主体的に行動したりする態度を育む防災教育・自ら判断し行動する力を育む放射線教育の充実
- 4 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
 - (1) 学習の基盤となる情報活用能力の育成
 - (2) 教師の指導力向上・ICT 支援員との協働・ICT 環境整備の充実
 - (3) 大学や地域企業と連携・協働した体験活動（科学的リテラシーの定着にも資する STEAM 教育の視点による自然体験活動、社会体験活動等）の機会充実
 - (4) 校務DXの充実整備
- 5 計画の実効性確保のための基盤整備・対話
 - (1) 学校における働き方改革と ICT 環境の整備
 - (2) 医療・保健機関、福祉機関、警察との連携による児童生徒の健康や安全を守るための取組推進
 - (3) 幼児期からの教育相談支援

第三期教育振興基本計画の本町における成果と課題

◇ 第三期教育振興基本計画当初の課題と実践

確かな学力

△思考、判断、表現力に課題

△家庭学習時間の減少

△主体的な学習態度に課題

豊かな心

△各種経験の減少から規範意識や社会性の稀薄化

健やかな体

△二極化(運動能力、運動の機会、運動への意識)

△昭和60年代と比較して運動体力の低下

【改善のために】

- ・ ICT 活用
- ・ イノベーション創出
- ・ コミュニティとの協働
- ・ アクティブラーニングの実践

◇ II期(H25~29)

- 「社会を生き抜く力」の養成(基本的方向性I)を掲げ、自立と協働を図るための主体的・能動的な力である「社会を生き抜く力」を養うこととした。
特に、子どもたちのコミュニケーション能力の育成を目指した。

◇ III期(H30~R4)

- 主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造できる力の育成を掲げ、予測不能な社会に「柔軟に対応し、生き抜く力」を身に付け、社会が大きく変化しても困難な状況に立ち向かうことができる人材を育てることとした。

- ◇ I人I台端末を用いた効果的な実践例の創出・横展開、デジタル教科書・教材・ソフトウェアの活用
の促進、ICT支援員の配置の充実など、ICTの活用の日常化に向けてGIGAスクール構想を強
力に推進した。

対面指導の重要性や児童生徒等の発達の段階にも留意しつつ、ICT教育(遠隔・オンライン
教育を含む)を有効活用した取組を推進したことで以下の成果が見られた。

学力面では、

- ・小中学校ともに平成26年度より向上
- ・特に活用する問題で20ポイント向上
- ・国語の「話すこと・聞くこと」、国語・算数の記述式解答で全国平均を上回る

◎日頃よりICTを活用し、ともに学び合う授業を通して、自らの考えを相手に伝える活動を実践
したことから、コミュニケーション能力が向上した。

身体面では、

- ・コロナ禍により、肥満傾向児の割合が全国平均を上回っている。
- ・SSR等での指導充実により、不登校傾向の児童生徒数は減少した。
- ・2度の福島県沖地震直後においては、不定愁訴を申し述べる児童生徒が散見された。

※ 新たな教育振興基本計画の「5つの基本的方針」を支える16の教育施策の目標の中から、新地町教育委員会と関連のある「指標」「施策」を以下に記載

【主として、確かな学力の育成】

- 目標1 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成
 - 目標4 グローバル社会における人材育成
 - 目標5 イノベーションを担う人材育成
- (指標) 全国学力・学習状況調査において全国平均、ふくしま学力調査において県平均を上回る。
(施策) ICTを活用した学習者主体となる新たな授業スタイルの創造と実践
全国学力・学習状況調査・ふくしま学力調査の分析・活用

- ・ 町教頭会との連携による全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査の結果分析と保護者・地域へ周知
- ・ 小中連携学力向上推進協議会の開催と各校からの研究授業の提供、町内互見授業の実施
- ・ 小学生の家庭学習の充実(小学生家庭学習用問題集「ち・か・ら」の活用)
- ・ 中学生の家庭学習の充実(中学生既成問題集の活用)
- ・ トライ塾(長期休業中の中学生への学習支援)
- ・ 学習支援員、学校図書館支援員の配置
- ・ 外国語活動、外国語科の完全実施に向けたALTの配置
- ・ 中学校英語科の充実のためのネイティブスピーカーであるALTの町雇用
- ・ 美文朗読の活用による豊かな言語環境の提供
- ・ 明治大学・東京大学、地域企業との連携による学習支援や体験活動の機会提供

【主として、豊かな心の育成】

- 目標2 豊かな心の育成
 - 目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成
- (指標) 自己肯定感・自己効力感の向上
(施策) 互いの良さを認め合う集団づくり、特別の教科道徳を中心とした道徳教育の推進

- ・ 新地町主催十七字のふれあい(ICT・食育部門)や少年の主張大会の実施
- ・ 各種コンクールへの積極的な参加を呼びかけ
- ・ SSWやSC、SSR 及び関係機関との連携による心のサポート
- ・ いじめ防止基本方針の徹底と各校によるいじめアンケートの実施
- ・ 町校長会、教頭会との連携による生徒指導情報の共有と町教委からの助言
- ・ ICTを活用した生徒指導データ(WebQU(※1)や相関図等)と学習データの連携による生徒指導を生かした学習指導の充実
- ・ 「わたしたちのまち新地」の積極的な活用
- ・ 地域企業や関連団体の人材活用による郷土愛を育む地域学習の充実

【主として、健やかな体の育成】

○目標3 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成

(指標) 全国体力・運動能力調査において全国平均・県平均を上回る。

肥満傾向児出現率全国平均(10%)以下

(施策) 学校における体育指導や食に関する指導等の充実、児童生徒の体を動かす習慣(1日60分以上)の定着

- ・ 「さ(魚)わ(和食)や(野菜)か(海藻)だ(だし・大豆)」と地場産物を活用した食育事業の推進(栄養教諭を中核とした町内4校での取組:さわやかだ わが家のおすすめ料理コンテスト)
- ・ 各校ごとに実態に合わせて実施している1日60分以上体を動かす活動の推進(朝のマラソン、業間を活用した体操、個別の肥満指導)
- ・ 感染症予防マニュアル・食物アレルギー対応マニュアルの確認とバージョンアップ
- ・ 地域学校保健委員会による「早寝・早起き・朝ごはん」の推進
- ・ 自ら危険を予測して回避したり主体的に行動したりする態度を育む防災教育
- ・ 自ら判断し行動する力を育む放射線教育の充実
- ・ 郷土愛の育成や復興・創生を担う人材づくり含む環境教育・郷土学習の推進
- ・ 保育所、小・中学校が連携したきめ細かな就学指導・支援
- ・ 学習支援員、介助員の適正な配置
- ・ 町内各校で実態に応じたバリアフリー環境の構築
- ・ SCやSSW、SSR等、関係機関と連携した不登校傾向児童生徒への支援(ICTによる支援も含む)

【ICT教育の推進】

○目標11 教育DXの推進・デジタル人材の育成

(指標) 教員のICT活用指導力チェックリスト「ICT活用を指導する能力」を持つ教員が85%以上

(施策) 学習者主体となる探究型学習の推進

統合型校務支援システムの日常的運用・プログラミング教育の計画的推進

- ・ ICT活用協議会(町教委・町内小中学校管理職・情報担当教員・ICT支援員・ICTアドバイザーにより構成)を核としたICT教育の推進
- ・ 県内ばかりでなく全国からも参加者が集うICT活用発表会の開催(町内全校での授業公開、意見交換会、講演会)
- ・ 町教育委員会指導主事による、文部科学省・総務省主催の研修会・報告会への参加
- ・ ソフトウェア開発関連業者との連携による教員向け研修会の開催
- ・ ICT活用を促進するためのICT支援員の各校への常駐配備
- ・ 自他を尊重する情報モラル教育の推進とシチズンシップ(※2)意識の醸成

【児童生徒の学びを支える働き方改革の推進】

○目標12 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化

(指標) 町内小・中学校教職員の時間外勤務時間を減少させる。

児童生徒に向き合う時間を増やすとともに、町内小・中学校教員の指導力を向上させる。

(施策) 学校行事の見直しによる授業時数の精選、学校閉庁期間の拡充

働き方改革に資する統合型校務支援システムの活用による校務の効率化

- ・ 統合型校務支援システムの活用と勤怠管理による勤務時間のデジタル運用
- ・ 教職員への校務用端末と指導用端末の配付
- ・ 町教委、町校長会・教頭会との連携による学校行事の見直しと教職員の働き方改革の推進
- ・ 夏季休業中に教育委員会学校管理日を設け、教職員の夏季休暇等の有給休暇取得を促進
- ・ 学校教育に関する外部評価委員会開催、保護者アンケートのウェブ評価
- ・ 統合型校務支援システムによる児童生徒の健康観察記録

- (指標) 登下校時を含む学校管理下における児童生徒の事故発生件数を改善する。
各学区で起こりえる災害を想定し、主体的な避難訓練を計画通り実施する。
- (施策) 学校・地域・関係機関との連携協力の下で通学路点検を実施する。
要請訪問 I 及び管理訪問等の機会に校舎内外の安全管理指導を実施する。
放射線教育、防災教育を通して、放射線や地震・津波に関する科学的リテラシーを定着させる。
マイ・タイムラインの作成を通じて、どのような避難行動が必要か、自らのこととして捉え、さらには家族と一緒に日常的に考えることで主体的な防災意識を高める。
新地町「ながら見守り活動」により、地域全体で子ども達を見守ることで安全の確保を強化する。

- ・ 警察、国道事務所、県、町関係課等の関係機関と連携した通学路点検の実施
- ・ 町校長会・教頭会との情報共有による安全指導の徹底
- ・ 教育委員会学校管理日を設け、町教委による定期点検による安全管理の徹底
- ・ 科学的リテラシー(※3)の定着にも資する放射線教室、防災教室の開催
- ・ 夏季休業前にマイ・タイムライン(※4)の作成、夏季休業中を生かした家庭への啓発
- ・ 地震や津波、台風などの自然災害に関する教育委員会作成資料の配付

※1 WebQU

学級経営アセスメントツール「Q-U」の Web 版でインターネット環境があれば利用できる学級経営サポートシステムであり、児童生徒の学級満足度をアンケート実施日当日に把握することが可能となります。

いごちのよいクラスにするためのアンケート(学級満足度尺度)」「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート(学校生活意欲尺度)」「ふだんの行動をふり返るアンケート(ソーシャルスキル尺度)」から構成されています。

※2 シチズンシップ

英語の「シチズンシップ(citizenship)」は、「市民権」を意味しますが、「シチズンシップ教育」は、他人を尊重しながら、市民として社会に参加し、その役割を果たせるように、児童生徒を育てることとなります。

※3 科学的リテラシー

「自然界及び人間の活動によって起こる自然界の変化について理解し、意思決定するために、科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力」のことです。

その際に、科学的な原理や概念の理解にとどまることなく、それらを「生活と健康」、「地球と環境」、「技術」という側面から、日常生活に活用することを重視すること、科学的プロセスに着目し把握しようすること、科学的現象の記述、説明、予測、科学的探究の理解、科学的証拠と結果の解釈というプロセスに分類し、把握しようとするのが大切とされています。

※4 マイタイムライン

住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。この作成過程で、それ以外の災害についての防災意識の高揚も期待できます。

IV 学校教育

令和5年5月1日現在

■ 1 児童・生徒数

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数	
福田小	8	8	14	5	14	8	57	普通 6	特支 1
新地小	31	46	35	35	31	31	209	普通 7	特支 2
駒ヶ嶺小	23	24	20	20	23	18	128	普通 6	特支 1
小学校計	62	78	69	60	68	57	394	普通 19	特支 4
尚英中	74	63	73				210	普通 8	特支 2
合計							604	普通 27	特支 6

■ 2 教職員数

(1) 県雇用

学校名	校長	教頭	教諭	常講	養教	栄教	事務	SC	SSW	SSS	※1	※2	※3	合計
福田小	1	1	8	1	1		1	(1)	(1)	1			1	13
新地小	1	1	10	2	1	1	1	(1)	(1)	1	1			17
駒ヶ嶺小	1	1	8	2	1		1	(1)	(1)	1			2	14
小学校計	3	3	26	5	3	1	3	0	0	3	1	0	1	48
尚英中	1	1	16	2	1	0	1	1	1	1	0	0	0	24
合計	4	4	42	7	4	1	4	1	1	4	1	0	1	72

○ 教諭、常講（常勤講師）、養護教諭、栄養教諭、事務職員は定数内の数（県単の補正含む）。

○ ※1 県外派遣教員（合計には含めない）

○ ※2 長期研修教員（合計には含めない）

○ ※3 休業中職員（再掲のため合計から除く）

(2) 町雇用

学校名	ALT	用務員	調理員	学習支援員	介助員	図書館支援員	ICT支援員	合計
福田小	(1)	1	2	1	0	1	1	6
新地小	1	1	3	2	0	1	2	10
駒ヶ嶺小	(1)	1	2	2	0	(1)	1	6
小学校計	1	3	7	5	0	2	4	22
尚英中	1	1	4	1	0	(1)	2	9
合計	2	4	11	6	0	2	6	31

○ALTは月定額雇用

○用務員4名及び調理員11名の計15名のうち11名は会計年度任用職員

○学習支援員及び介助員は会計年度任用職員

○小学校のALTは新地小学校に計上

○図書館支援員は、福田小学校と駒ヶ嶺小学校兼務1名（福田小に計上）、新地小学校と尚英中学校兼務1名（新地小に計上）の計2名

(3) 教職員数合計

学校名	県雇用教職員等	町雇用教職員等	合計
福田小	13	6	19
新地小	17	10	27
駒ヶ嶺小	14	6	20
小学校計	48	22	66
尚英中	24	9	33
合計※内:正採用	72 ※64	31 ※4	99 ※68

■ 3 学校医等

学校名	内科	歯科	眼科	耳鼻科	薬剤師
福田小	遠藤徳雄	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	黒沢百合
新地小	遠藤徳雄	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	黒沢百合
駒ヶ嶺小	遠藤徳雄	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	阿部尚美
尚英中	菅野良恵	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	桜井利彦

■ 4 学校評議員

学校名	学校評議員名(職業等)
福田小	佐藤 和彦(福田郵便局長)、阿部 洋子(福田保育所長)、 小賀坂義紀(現PTA会長)、本田 和也(東林寺住職)
新地小	菅野 昌孝(歴代PTA会長代表)、荒 かとり(新地保育所長)、 濱野 重雄(地域住民代表)、片平 和正(地域住民代表)、 伊藤 佳枝(現PTA会長)
駒ヶ嶺小	吉田 幸弘(現PTA副会長)、加藤 里佳(駒ヶ嶺保育所長)、 寺島 洋(歴代PTA会長)、菅野 孝雄(第12区行政区長)
尚英中	荒 達也(男女共同参画推進会議会長)、渡部 啓子(新地町人権擁護委員)、 畠山 美雪(新地町保健センター前保健師長)、 伏見よし子(新地町主任児童民生委員)、大内 広行(前PTA会長)

■ 5 校長会・教頭会

役職名	校長会		教頭会	
会長	五十嵐隆之	駒ヶ嶺小	加藤 行宣	尚英中
副会長	安良 公広	尚英中	篠木美佐子	新地小
庶務	荒 博史	新地小	永野 忠明	福田小
会計	青田 祥一	福田小	小野 啓	駒ヶ嶺小

■ 6 新地町教育研究会

役職名	校長名	学校
会長	青田 祥一	福田小
副会長 教職員セミナー部長	荒 博史	新地小
研究部長	五十嵐隆之	駒ヶ嶺小
専門部長	安良 公広	尚英中

■ 7 児童生徒数の推移

西暦	年度	福田小	新地小	駒ヶ嶺小	小学校計	尚英中	小中計
2023	R5	57	209	128	394	210	604
2022	R4	64	207	138	409	210	619
2021	R3	63	192	141	395	222	617
2020	R2	62	195	145	402	222	624
2019	R元	69	193	153	415	233	648
2018	H30	70	190	158	418	240	658
2017	H29	73	200	164	437	249	686
2016	H28	80	207	160	447	254	701
2015	H27	92	217	159	468	262	730
2014	H26	98	224	158	480	247	727
2013	H25	104	230	156	490	233	723
2012	H24	104	243	163	510	240	750
2011	H23	108	219	166	493	256	749
2010	H22	111	230	134	475	249	724
2009	H21	120	256	128	504	239	743
2008	H20	125	256	124	505	250	755
2007	H19	127	256	114	497	261	758
2006	H18	128	262	111	501	284	785
2005	H17	121	279	111	511	285	796
2004	H16	118	302	112	532	285	817
2003	H15	122	283	127	532	268	800
2002	H14	121	289	134	544	304	848
2001	H13	119	292	139	550	325	875
2000	H12	121	283	145	549	361	910
1999	H11	126	299	162	587	364	951
1998	H10	130	301	167	598	390	988
1997	H9	122	323	174	619	397	1,016
1996	H8	126	353	188	667	393	1,060
1995	H7	134	369	197	700	395	1,095
1994	H6	137	380	212	729	403	1,132
1993	H5	140	403	208	751	398	1,149
1992	H4	144	390	218	752	414	1,166
1991	H3	152	394	221	767	402	1,169
1990	H2	153	399	213	765	422	1,187
1989	H元	156	412	214	782	429	1,211
1988	S63	154	410	222	786	451	1,237
1987	S62	154	430	230	814	458	1,272
1986	S61	149	443	248	840	441	1,281
1985	S60	144	495	233	872	403	1,275
1984	S59	148	485	240	873	362	1,235
1983	S58	143	478	231	852	340	1,192
1982	S57	148	484	213	845	345	1,190
1981	S56	144	447	210	801	329	1,130
1980	S55	133	426	194	753	326	1,079
1979	S54	138	401	187	726	345	1,071
1978	S53	113	371	170	654	373	1,027
1977	S52	121	364	166	651	393	1,044
1976	S51	136	349	175	660	417	1,077
1975	S50	150	364	179	693	444	1,137
1974	S49	158	360	181	699	497	1,196
1973	S48	181	345	212	738	546	1,284
1972	S47	205	371	240	816	571	1,387
1971	S46	231	396	256	883	584	1,467
1970	S45	221	444	287	952	608	1,560
1969	S44	241	467	310	1,018	633	1,651
1968	S43	255	520	316	1,091	675	1,766
1967	S42	259	572	335	1,166	749	1,915

■ 8 小・中学校施設

施設名	新地町立福田小学校
創立年月	明治11年5月(1878.5)
所在地	〒979-2708 新地町大字福田字中里16
電話等	TEL:0244-62-2303 FAX:0244-63-2016
E-mail	fukuda-sl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎:昭和43年12月/RC造1,372㎡ 平成22年6月 耐震補強及び大規模改修 屋体:昭和46年10月/鉄骨造495㎡ 平成22年6月 耐震補強及び大規模改修 プール:平成26年8月/ステンレス製25m×6コース(町民プール) 全面改築(平成26年度完成) エアコン:令和元年7月/各教室

施設名	新地町立新地小学校
創立年月	明治5年5月(1872.5)
所在地	〒979-2702 新地町谷地小屋字愛宕1
電話等	TEL:0244-62-2006 FAX:0244-63-2506
E-mail	shinti-sl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎:平成4年8月/RC造4,166㎡ 屋体:平成13年8月/鉄骨造1,283㎡ プール:平成13年12月/FRP製25m×6コース エアコン:令和元年7月/各教室 トイレの洋式化:令和2年3月

施設名	新地町立駒ヶ嶺小学校
創立年月	明治5年6月(1872.6)
所在地	〒979-2611 新地町駒ヶ嶺字新町前52
電話等	TEL:0244-62-3007 FAX:0244-63-2039
E-mail	koma-sl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎:平成13年2月/木造・RC混造4,406㎡ 屋体:平成12年2月/木造・RC混造1,099㎡ プール:平成13年12月/FRP製25m×5コース エアコン:令和元年7月/各教室 トイレの洋式化:令和2年3月

施設名	新地町立尚英中学校(福田中学校、新地中学校、駒ヶ嶺中学校の3校を統合)
創立年月	昭和40年4月(1965.4)
所在地	〒979-2702 新地町谷地小屋字愛宕38
電話等	TEL:0244-62-2052 FAX:0244-63-2138
E-mail	shoeijh1@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎:平成9年12月/RC造5,243㎡ 屋体:平成11年3月/鉄骨造1,326㎡ プール:町民プール使用 エアコン:令和元年7月/各教室 トイレの洋式化:令和2年3月

V 文化財

■ 1 新地町の歴史的特色

町内では、新生代(約6500万年前)から近・現代に至るまで、長い期間の遺跡が確認されています。

鹿狼山には新生代の地層から、貝の化石の堆積層が確認されています。

旧石器時代については、昭和50年代の圃場整備に伴う試掘調査により、三貫地遺跡(原口地区)から1600点に及ぶ、約3万年前の物と考えられる製造途中の石器が見つかります。

縄文時代の遺跡は、国指定史跡「新地貝塚^{つけたり}附 手長明神社跡」、福島県指定史跡「三貫地貝塚」という二つの貝塚遺跡が取り分け有名です。新地貝塚は江戸時代、伊達藩で作成された「奥羽^{おうかんせきもんろうし}観蹟聞老志第4巻」に老いた鹿、白い狼を連れた手長明神が、鹿狼山の頂上から手を伸ばして海のなかに手を入れて貝を採って食べていた逸話と共に紹介されており、江戸時代以前からその存在が知られていることが伺えます。三貫地貝塚は、昭和27年、29年の2回、日本考古学協会、東京大学人類学教室により行われた学術的な調査の結果、百数体分の人骨が見つかります。

古墳時代の遺跡は、雀塚古墳群や富穴前古墳群をはじめ、古墳時代末になると製鉄が行われていたことがわかっています。相馬共同火力発電所は、その建設に先駆け調査が行われ、大規模な製鉄遺跡が確認されました。古墳の築造や製鉄の技術は、いずれも大和政権との強い結びつきを示すものです。なお、この土地で鑄造された鉄は、軟らかく、武器や工具にするには適していない為、祭祀などの道具に加工され、宮城県の大賀城府に供給されていたことがわかっています。

戦国時代(約500年前)の新地町は、相馬氏の所領でした。北には伊達藩が迫っており、新地城(蓑首城)、駒ヶ嶺城(臥牛城)、谷地小屋要害が相馬氏により築城されましたが、天正17年(1589年)伊達藩により攻め落とされ、以降、明治政府が樹立する1868年までの約280年にわたり、新地町は伊達藩の所領となります。藩境は現在の国道113号線で、駒ヶ嶺の白子下C遺跡からは藩境を示す遺構が確認されています。また今泉、藤崎地区では仙台藩により運営された大規模な製塩跡が確認されており、伊達藩にとって重要な土地であったことが伺えます。

近代、全国的に倒幕運動が盛んになると町もまた戊辰戦争(慶応4年)の戦火に巻き込まれ、今泉地区や大戸浜地区では特に熾烈な戦いが繰り広げられました。

不遇にも戊辰戦争の戦場と化した新地町からの復興と、新しい時代への対応が迫られるなか、これからの近代化に向けた激動の時代を乗り越える為、もっとも必要なものは学業であると説いた目黒重真が中心となり学制頒布(明治5年)に先駆け、氏家閑存を初代校長に迎えて観海堂が開校しました。福島県、宮城県の中で最も古く創立された共立学校と考えられます。歴史的意義が重要視され県指定史跡となっています。平成23年3月11日、東日本大震災の津波により建物は全壊・流失しましたが、歴史的な意義は失われておらず、平成30年2月に観海堂跡と名称を変更しました。

民俗・習俗に関しては、藤崎地区で寛政10年より駒ヶ嶺城主宮内信清らが少しずつ揃え

たと伝わる「藤崎大般若経」が残り、現在でも「転読会」が行われており、町指定有形文化財に指定しています。福田地区の諏訪神社には、丸森町から伝わった「福田十二神楽」が現在もお伝承され、福島県指定無形民俗文化財となっています。

■ 2 指定文化財

(1) 国指定

名称	指定年	所在地	種類	時代	内容
新地貝塚 ^{つげたり} 附 手長明神社 跡	昭和5年 (1930)	小川字貝塚西	史跡	縄文時代	縄文後・晩期の貝塚 手長明神伝説の舞台 新地式土器の標式遺跡
	発掘調査 明治23年 東京人類学会 大正13年 東京帝国大学理学部人類学教室 平成12年 新地町教育委員会 埋蔵文化財調査技術協力職員(福島県教育委員会)				

(2) 県指定

名称	指定年	所在地	種類	時代	内容
三貫地貝塚	昭和43年 (1968)	駒ヶ嶺字田丁場 ・三貫地西	史跡	縄文時代	縄文後・晩期の貝塚 人骨百数十体が出土
	発見 明治26年 発掘調査 大正13年 東京帝国大学人類学教室 昭和27年 日本考古学協会 昭和29年 東京大学人類学教室 昭和52年 福島県文化センター遺跡調査課				
観海堂	昭和41年 (1966)	駅前1丁目4	史跡	明治時代	明治5年学制頒布前の 共立学校
	保存修理解体復元工事 平成7年度 屋根修繕工事 平成20~21年度 平成23年3月11日発生 of 東日本大震災の津波により全壊流失 平成25年7月26日観海堂復興委員会を発足 平成30年2月6日「観海堂跡地」へ名称を変更				
白幡のいちよう	平成9年 (1997)	駒ヶ嶺字白薄	天然記念物		誕生 1700年 半ば頃 樹齢 320年 別名 さかさいちよう 調査 平成3年樹齢測定
福田十二神楽	平成5年 (1993)	福田字諏訪	重要無 形民俗 文化財		福田地区に伝わる十二の 演目からなる神楽

(3) 町指定

名称	指定年	所在地	種類	時代	内容
大般若経 600巻	平成16年 (2004)	駒ヶ嶺字中西	有形文化財	寛政10年 (1798)	藤崎地区に残る大般若経 藤崎地区所有
	書蔵庫建設 平成21年度 仏像修復 平成25年度				


VI 生涯学習・社会教育

■ 1 新地町社会教育委員・新地町公民館運営審議会

任 期(2年): 令和4年4月1日 ~ 令和6年3月31日		
職 名	氏 名	選 出 区 分
委員長	大須賀 昇	NPO法人(ドリームタウンしんち)
副委員長	松下 輝典	行政区長会
委 員	荒 礼子	福田婦人会
委 員	五十嵐 隆之	小中学校長会
委 員	小賀坂 義紀	PTA連絡協議会
委 員	中村 康伸	相馬総合高等学校
委 員	森 祥子	家庭教育
委 員	飯土井 美津子	民生児童委員協議会

■ 2 生涯学習・社会教育事業(令和5年度事業計画)

(1) 家庭教育事業

事業名	目 的	内 容
家庭教育学級	町内各小中学校、相馬総合高等学校新地校舎と連携し、保護者及び児童、生徒を対象に講座等を実施し、家庭教育等の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学予定児童の保護者を対象に就学時健診を活用した『子育て講座』を実施する。 ・中学校の生徒、相馬総合高等学校新地校舎の生徒及び保護者を対象に『保健講話』を実施する。 

(2) 青少年教育事業

新地町青少年健全育成町民会議役員

任 期(2年): 令和5年4月1日 ~ 令和7年3月31日		
職 名	氏 名	選 出 区 分
会長	大堀 武	新地町長
副会長	小野 春雄	新地地区推進協議会長
運営委員	中村 康伸	福島県立相馬総合高等学校校長
運営委員	五十嵐 隆之	新地町立小中学校校長会会長(駒ヶ嶺小学校校長)
運営委員	小賀坂 義紀	新地町小中学校PTA連絡協議会会長(福田小学校PTA会長)
運営委員	荒 修	新地町民生児童委員協議会会長
運営委員	伏見 よし子	新地町民生児童委員協議会主任児童委員代表
運営委員	水戸 洋一	新地町議会代表(総務文教常任委員会委員長)
運営委員	岡崎 仁一	新地町防犯協会代表(副会長)
運営委員	佐々木 孝司	新地町教育委員会教育長
監事	阿部 恒夫	駒ヶ嶺地区推進協議会長
監事	小林 成子	福田地区推進協議会長

事業名	目的	内容
青少年健全育成事業	広く町民の創意を結集し、国・県・町の施策と呼応して青少年の健全な育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・『新地町青少年健全育成町民会議運営委員会』開催 → 期日:6月2日(金) ・『新地町青少年健全育成町民会議総会』開催 → 期日:6月29日(木) ・『第27回新地町少年の主張大会』開催 → 期日:7月10日(月) → 会場:新地町文化交流センター ・「家庭の日」の普及啓発と児童生徒の作品募集 ・「十七字のふれあい」作品募集
読書活動ボランティア支援事業	町内各小学校や図書館で活動している『読書活動ボランティア』を支援し、読書活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・『読書活動ボランティア』が行う町内各小学校での読み聞かせ、昔語り等、及び図書館でのボランティア活動等の支援。 → 期間:5月~3月
第27回姉妹・友好都市シニアリーダー研修交流会	姉妹・友好都市である北海道伊達市、新地町、柴田町、亘理町、山元町の5市町のシニアリーダーが一堂に会し、情報交換や交流を行う中で、相互の親睦を深めると共に資質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史講話、レクリエーション、野外活動、グループ活動等 → 期日:7月31日(月)~8月2日(水) → 開催地:北海道伊達市

(3) 生涯学習応援事業

事業名	目的	内容
各種教室・生涯学習講座	多様な学習機会や活動の場を提供し、一人ひとりがその個性や能力を伸ばし、生きがいのある健康な社会の構築を図り、生涯学習のまちづくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新地公民館各種教室、講座 ・駒ヶ嶺公民館各種教室 ・勤労青少年ホーム各種教室
新地町職員出前講座	町関係職員等が講師となり、町政の説明や専門知識を活かした講座等を行い、町民の理解を深め、生涯学習のまちづくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習メニュー数 41講座 → 期間:5月~3月 → 対象:町内に在住・在勤又は在学する10名以上で構成された団体等
移動教室	町民等のサークル・団体等で自主サークルとして事業を行う際に、講師謝礼の一部を負担することにより、町民主体の生涯学習の普及啓発を図り、生涯学習のまちづくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> → 期間:5月~3月 → 対象:町内に在住・在勤又は在学する10名以上で構成されたサークル・団体等
生涯学習フェスティバル	公民館・勤労青少年ホーム等で学んでいる文化団体・サークル等の成果発表の場づくり及び生涯学習機会の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・勤労青少年ホームの各教室生及び利用団体・サークル等の学習発表、作品展、写真展、体験コーナー、手づくり作品等販売など → 期日:令和6年1月27日(土)・28日(日) → 会場:新地町農村環境改善センター・新地町保健センター
学習サークルの案内	各公民館・勤労青少年ホームで活動している学習サークル・文化団体等を紹介し、生涯学習活動の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習サークル紹介のチラシを作成、配布する。 → 団体数:23団体

(4) 男女共同参画推進事業

新地町男女共同参画プラン推進会議委員

任期(2年): 令和4年4月1日 ~ 令和6年3月31日		
職名	氏名	選出区分
会長	荒 達也	学識経験者
副会長	本田 牧子	福田婦人会
委員	齋藤 充明	新地町議会議員
委員	横田 正寛	新地町行政区長会
委員	安良 公広	新地町小中学校長会
委員	横田 恵子	新地町商工会 女性部
委員	菅野 一子	JAふくしま未来女性部 新地支部
委員	鈴木 幸子	NPO法人 ドリームタウンしんち
委員	荒 修	新地町民生児童委員協議会
委員	遠藤 篤志	社会福祉法人 しんち福社会
委員	奥村 貢	企業代表(石油資源開発株式会社)
アドバイザー	長沢 涼子	福島県男女共生センター

事業名	目的	内容
男女共同参画推進事業	男女が互いに人権を尊重しつつも責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指すことを目的に各種事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画プラン推進会議・連絡会議の開催 ・『第22回新地町男女共生のつどい』開催 ・『男の料理教室』開催

(5) 成人式

事業名	目的	内容
新地町 二十歳のつどい	二十歳という人生の節目を迎えた青年の新しい門出を祝福すると共に社会人として果たすべき義務や権利を再確認し、しっかりと自覚してもらうため式典を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・式典 ・記念行事 → 期日: 令和6年1月7日(日) → 会場: 新地町文化交流センター → 対象者: 平成15年4月2日 ~ 平成16年4月1日 生まれて、町内在住 または尚英中学校卒業者

(6) 文化芸術振興事業

事業名	目的	内容
文化芸術振興事業	町民が文化・芸術に親しむ機会にふれ、豊かなこころ感性を育むことを目的として文化芸術鑑賞事業を実施する。 また、町民に文化芸術の創作・発表の場を提供するとともに、文化交流センターを核とした様々な世代・団体等の交流やまちのにぎわいの創出を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・映画上映会事業の実施 一般向け上映会及び子供向け上映会の開催 ・音楽鑑賞事業 親子ゆかいなコンサート、ズーラシアクラシック、ミュージックフェスの開催 ・芸能鑑賞事業 津雅龍会雅楽演奏会の開催

【福田十二神楽 三本剣】



【福田十二神楽 春日舞】



■ 3 社会体育(スポーツ)事業
新地町スポーツ推進委員

任 期(2年)： 令和5年4月1日 ～ 令和7年3月31日			
職 名	氏 名	最初の委嘱年月日	通 算
委員長	菅野 孝雄	2003/4/1	11期
副委員長	渡部 節子	2015/4/1	5期
委員	門馬 巧	1999/4/1	13期
委員	細山 陽子	2015/4/1	5期
委員	斎藤 祐子	2017/4/1	4期
委員	佐藤 正美	2019/4/1	3期
委員	藤原 克昌	2021/4/1	2期
委員	堀江 倫子	2021/7/1	2期
委員	弓田 真由子	2023/4/1	1期
委員	佐藤 麻彩	2023/4/1	1期
委員	星 浩一郎	2023/4/1	1期
委員	森 智栄	2023/4/1	1期

(1) スポーツ推進事業

事業名	目的	内容
スポーツ推進委員 研修・活動等	スポーツの普及、振興の核となるスポーツ推進委員が各種研修へ参加し、資質向上に努め、スポーツの指導、教室開催協力等を行い、町民のスポーツ活動推進に寄与する。	・定例会、スタッフ会議等の開催 ・研修会への参加 ・ニュースポーツ教室等の開催協力等
新地町スポーツ協会	スポーツ振興を通じて町民の体力向上を図り、アマチュアスポーツ精神を高揚し、明るくたくましい町民等の育成を図る。	・理事会、総会の開催 ・各種町民体育大会等 ・協会加盟団体紹介チラシ発行
スポーツ少年団	スポーツ少年団を育成指導し、アマチュアスポーツの普及振興を図る。	・役員会の開催 ・結団式 ・各種大会等
町民プール	体育の普及、振興並びに町民の健全な心身の発達と健康増進を図るため、夏季に開設する。	→ 開設期間:7月22日(土) ~8月20日(日)
総合型地域 スポーツクラブ支援	「チャレンジしんち」と共催及び後援事業を実施し、総合型地域スポーツクラブの普及、推進を図る。	・役員会、総会、ニュースポーツ、ラージボール、ハイキング、ランニング、パークゴルフ等
文化・スポーツ 激励金交付	文化・スポーツ活動等において、県大会以上の大会に出場する選手等に激励金を交付し、スポーツ活動の振興、育成を図る。	・県大会以上の大会に出場する選手等に激励金を交付する。

(2) 成人等対象事業

事業名	目的	内容
第17回市町村対抗 福島県軟式野球大会	県内各市町村の交流と地域の活性化および生きがいのある健康な社会の構築、スポーツの普及とふるさとおこしに寄与する。	→ 期日:9月~10月 → 場所:県内野球場 → 担当:町野球リーグ (町スポーツ協会加盟)
第10回市町村対抗 福島県ソフトボール大会	県内各市町村の交流と地域の活性化および生きがいのある健康な社会の構築、スポーツの普及とふるさとおこしに寄与する。	→ 期日:10月 → 場所:相馬光陽ソフトボール場 (相馬市) → 担当:町ソフトボール実行委員会
第35回市町村対抗 福島県縦断駅伝競走大会	県民の体力向上と中・長距離選手の育成・強化を図るとともに、各市町村のふるさとおこしに寄与する。	→ 期日:11月19日(日) → コース: しらかわカタルスポーツパーク~福島県庁 (16区間95.0km)
自然体験ハイキング	自然の中をハイキングすることにより、心身の健康に対する意識の向上と町民間の交流を図る。	→ 期日:5月28日(日) → 場所:荒沢湿原 (宮城県加美町) → 協力:町スポーツ推進委員
令和5年度 新地町スポーツ講演会 東京2020オリンピック 空手 銅メダリスト 荒賀 龍太郎選手	町民の運動や健康に対する意識及び知識の向上を図る。	→ 期日:9月10日(日) → 場所:文化交流センター → 対象:全町民 → 主催:新地町・新地町教育委員会 → 共催:町スポーツ協会

■ 4 社会教育・社会体育施設

(1) 社会教育施設

施設名	新地公民館(新地町農村環境改善センター内)
所在地	〒979-2702 新地町谷地小屋字樋掛田40-1
電話等	TEL:0244-62-2085 FAX:0244-62-2172
建築年度	昭和62~63年度
建築面積	1,171㎡
構造	鉄筋コンクリート造
施設概要	大集会室、営農技術研修室、視聴覚研修室、生活改善研究室(和室)、加工実習室、農事試験検査室、郷土資料展示室、事務室、身障者用トイレ
開館時間	午前8時30分~午後9時
休館日	祝日 年末年始(12月29日~1月3日)
昨年度の 利用状況	各種発表会 各種会議 各種相談会 各種公民館教室等 利用者数:7,522人

施設名	駒ヶ嶺公民館
所在地	〒979-2611 新地町駒ヶ嶺字新町前29-1
電話等	TEL・FAX:0244-62-3477
建築年度	令和2~3年度
建築面積	995㎡
構造	鉄骨造
施設概要	多目的ホール(体育室)、多目的室、大会議室、小会議室、調理室、事務室
開館時間	午前8時30分~午後9時
休館日	祝日 年末年始(12月29日~1月3日)
昨年度の 利用状況	会議室:各種会議 各種相談会 各種公民館教室等 利用者数:28,704人

施設名	勤労青少年ホーム
所在地	〒979-2708 新地町大字福田字中里15-1
電話等	TEL・FAX:0244-62-3106
建築年度	昭和56年度
建築面積	723㎡
構造	鉄筋コンクリート造
施設概要	体育室、集会室、娯楽談話室、調理室、音楽室、更衣室、事務室、相談室、障害者用トイレ、図書コーナー
開館時間	午前8時30分~午後9時
休館日	祝日 年末年始(12月29日~1月3日)
昨年度の 利用状況	集会室:各種会議 各種相談会 各種公民館教室 音楽室:児童クラブ 体育室:各種スポーツ(卓球、バレーボール等)交流会等 娯楽談話室:各種会議等 利用者数:12,304人

施設名	新地町文化交流センター
所在地	新地町駅前一丁目3番地
電話等	TEL:0244-32-1301 FAX:0244-32-1302
建築年度	平成29年度～令和元年度
建築面積	1,828㎡
施設概要	多目的ホール、スタジオ1・2、会議室1・2、控室、事務室、ラウンジ、 屋外展示交流広場
利用時間	午前9時～午後9時
休館日	毎週火曜日(祝日のときはその翌日)・年末年始(12月29日～1月3日)
昨年度の 利用状況	多目的ホール:音楽演奏(コンサート等)、演劇、講演会、各種イベント スタジオ:音楽練習等 会議室:各種会議等 利用者数:14,228人

施設名	町民柔剣道場
所在地	〒979-2703 新地町小川字北原15-1
電話等	TEL:0244-62-2780
建築年度	昭和63年度
建築面積	494㎡
構造	鉄筋コンクリート造
施設概要	柔道場、剣道場、更衣室
休館日	祝日 年末年始(12月29日～1月3日)
競技種目	柔道 剣道
利用状況	スポーツ少年団(柔道、剣道) 尚英中学校部活動(柔道、剣道)

施設名	町民プール
所在地	〒979-2703 新地町小川字北原15-8(新地) 〒979-2703 新地町大字福田字中里15-1(福田)
電話等	TEL:0244-62-2780(新地) TEL:0244-62-2303(福田)
建築年度	昭和51年度(新地) 平成26年度(福田)
建築面積	水泳プール 500㎡、管理棟 323㎡(新地) 水泳プール 325㎡(福田)
構造	鉄筋コンクリート(新地) ステンレス製(福田)
施設概要	25mプール9コース、幼児用プール、ミーティングルーム(新地) 25mプール9コース、幼児用プール(福田)
開設期間	夏季休業期間中の定める日時
昨年度の 利用状況	新地町民プール:利用者数1,451人 幼児101人 小学生884人 中学生324人 高校生以上142人 福田町民プール:利用者数1,009人 幼児94人 小学生868人 中学生40人 高校生以上7人

(2) 社会体育施設

施設名	新地町総合体育館
所在地	〒979-2703 新地町小川字川向9-1
電話等	TEL:0244-63-2200 FAX:0244-63-2201
建築年度	平成9~11年度
建築面積	3,808㎡
構造	鉄筋コンクリート・一部鉄骨2階建
施設概要	アリーナ、トレーニング室、会議室、ステージ、更衣室、幼児室、シャワー室 保健室、テニスコート(2面)外 放送室、観覧席、ランニングトラック(110m)
開館時間	午前9時~午後9時
休館日	・毎週月曜日(祝日の場合は、その翌日) ・年末年始(12月27日~1月5日)
主な利用	卓球 バスケットボール バドミントン パレーボール インディアカ
昨年度の 利用状況	アリーナ844人 トレーニング室2,810人、会議室1,197人、幼児室0人、テニスコート0人 合計4,851人

施設名	町民野球場
所在地	新地町小川字川向9-1
建築年度	平成13年度
敷地面積	17,400㎡
建築面積	518㎡
施設概要	グラウンド(両翼98m)、本部室、放送室、控室、スタンド、夜間照明
利用時間	午前9時~午後5時(夜間使用午後9時まで)
開設期間	4月~11月 ※12月~3月(冬期間)は利用不可
休館日	年末年始(12月27日~1月5日)
昨年度の 利用状況	1,867人

施設名	陸上競技場
所在地	新地町小川字川向9-1
建築年度	平成14年度
敷地面積	13,000㎡
施設概要	200mトラック、ソフトボール場(2面)、サッカー場(1面)
利用時間	午前9時~午後9時
休館日	年末年始(12月27日~1月5日)
主な利用 スポーツ	サッカー ソフトボール 野球 グラウンドゴルフ 陸上競技
昨年度の 利用者数	4,506人

施設名	新地駅前フットサル場
所在地	新地町駅前二丁目7番地
電話等	TEL・FAX:0244-62-3577
建築年度	平成30年度
建築面積	フットサル棟 1,985㎡、管理棟 99㎡
施設概要	フットサル用コート(2面)
利用時間	午前9時～午後9時
休館日	毎週火曜日・年末年始(12月29日～1月3日)
主な利用スポーツ	フットサル、テニス
昨年度の利用者数	5,489人

施設名	こどもの森
所在地	新地町小川字川向9-1
建築年度	平成15～17年度
敷地面積	42,000㎡
施設概要	イベント広場、野外ステージ、遊具、芝生広場、公衆用トイレ、園路

【福田十二神楽 神楽隊】



VII 図書館

■ 1 施設概要

施設名	新地町図書館
所在地	〒979-2702 新地町谷地小屋字樋掛田40-1
電話・FAX	電話:0244-62-5031 FAX: 0244-62-2598
URL	http://www.shinchi-town.jp/site/library/
E-mail	library@town.shinchi.lg.jp
事業費	636,173千円(保健センター含む事業費 1,217,596千円)
構造	鉄筋コンクリート造鋼板葺2階建
面積	1,541.75㎡ 共有分 89.97㎡ (全床面積 2,915.27㎡)
施設	①開架フロア(一般開架コーナー、一般閲覧コーナー、児童開架コーナー、ブラウジングコーナー、おはなしコーナー、くつろぎコーナー、AVコーナー) ②視聴覚室兼展示室(学習室) ③編集室 ④閉架書庫 ⑤事務室 ⑥ブックポスト(IF)
設備	①視聴覚機器(テレビ、DVD、VHS、CD) ②プロジェクター ③電算(貸出返却、レファレンス、利用者検索 他) ④閲覧席 ⑤ロッカー

■ 2 蔵書

(1) 図書資料

(単位:冊)

分類	一般書	児童書	合計
総記	1,598	242	1,840
哲学	2,322	294	2,616
歴史	4,609	1,390	5,999
社会	6,696	1,310	8,006
自然	4,009	1,788	5,797
技術	5,525	903	6,428
産業	1,993	599	2,592
芸術	6,381	1,153	7,534
言語	931	407	1,338
日文	14,706		14,706
外文	1,203		1,203
辞典	1,929	152	2,081
郷土	3,170		3,170
文庫	3,751		3,751
大活字	349		349
全集	2,202		2,202
YA	897	275	1,172
児童文		5,812	5,812
絵本		7,052	7,052
紙芝居		493	493
合計	62,271	21,870	84,141

(2) 視聴覚資料 (単位:点)

種別	所蔵数
C D	3,739
DVD	611
VHS	258
合計	4,658

(3) 雑誌 (単位:種/冊)

タイトル数	54
所蔵数	799

(4) 付属資料 (単位:点)

所蔵数	531
-----	-----

(5) 新聞 (単位:種)

タイトル数	10
-------	----

■ 3 図書館利用カード登録者(団体等)数 令和5年3月31日現在

地区	男性	女性	団体等	合計	構成比
福田	521	707	14	1,242	9.9%
新地	1,551	1,951	54	3,556	28.3%
駒ヶ嶺	804	1,050	14	1,868	14.8%
図書館			35	35	0.3%
町外	2,088	3,716	64	5,868	46.7%
合計	4,964	7,424	181	12,569	100.0%

※町外:隣接市町登録者(相馬市、宮城県山元町、丸森町)

■ 4 新地町図書館協議会委員

任期	2年	令和5年4月1日~令和7年3月31日
職名	氏名	選出区分
会長	五十嵐 隆之	学校教育
副会長	鈴木 美代子	社会教育
委員	蓑野 邦好	学校教育
委員	佐伯 陽子	社会教育
委員	田村 民雄	学識経験者

■ 5 令和5年度 事業計画

(1) 事業(行事)

事業(行事)名	実施日	実施内容
読み聞かせ会	毎月第3土曜日11:00~	・図書館ボランティア『スイミー』による読み聞かせや季節の工作を行う。 ・館内の紹介コーナーに、使用した本や工作を展示し貸出を行う。
ブックスタート	保健センターでの3カ月児健診時	・幼児絵本の展示利用及び、司書から保護者へ「乳幼児からの読み聞かせの大切さ」を説明し、幼児絵本1冊を贈呈する。
こどもの読書週間	4月15日~5月28日	・子ども読書の日(4月23日)、こどもの読書週間(4月23日~5月12日)の啓発に努める。 ・4月15日をよいこの日とし、各年齢の発達段階に応じた図書の展示貸出を行う。 ・読んでピンゴの実施。(ピンゴ達成者へ記念品を贈呈) ・児童書の配置図を掲載した「図書館へ行こう」を作成し、子どもたちへ配布。 ・先生向け図書館利用案内を作成し、町内の保育所・小中高校の全先生へ配布。

秋の読書週間	10月中旬～11月末	・秋の読書週間(10月27日～11月9日)、文字活字文化の日(10月27日)の啓発に努める。 ・文豪当てクイズや文豪名作おすすめ図書案内を行う。
学校図書室連携	各校毎月1回 (日程調整により実施)	・図書担当教諭・図書室支援員との懇談。 ・単元やテーマごとの図書リストを作成・配布し、授業での図書利用促進を図る。 ・学校図書室の整備サポート。
図書館×児童館連携 「図書館探検」	7月19日	・児童館のたんぼぼひろばを図書館で開催。親子へ、図書館見学・利用説明・絵本紹介と読み聞かせ・DVD紹介を行う。
小学校夏休み特別 個人貸出事業 (移動図書館)	貸出期間:7月上旬～8月上旬	・駒ヶ嶺・福田小学校に本を搬入し、全児童を対象に貸出を行う。 ・利用カード未作成児童へのカード作成。
読書感想画コンクール	募集:7月・8月 表彰・展示:11月	・町内の小中学生と相馬総合高等学校新地校舎の生徒を対象に作品募集・審査会を実施。図書館まつりの際に表彰式を行う。
子どもの読書と本の案内	就学前検診時 10月(3回)	・新1年生の保護者へ「子どもの成長と読書」の説明、おすすめ図書の案内・貸出、新1年生には絵本の読み聞かせを行う。
除籍資料リサイクル	10月下旬:教育関係機関 11月上旬:利用者	・除籍した図書(破損本等)・雑誌(2021年度分)のリサイクル。
図書館まつり	11月上旬	・ベストリーダー展示・クイズラリー・体験コーナー・親子ふれあい広場(読み聞かせ・工作)・バルーンアート・茶道体験・郷土上映などを行い、図書館のPRに努める。
町内の学校・施設への 図書館コーナー設置 事業	選書日:毎月第2金曜日 入替日:館内整理日	・町内の小中学校の各クラス、駒ヶ嶺公民館・勤労青少年ホーム・総合体育館・フットサル場・新地ホーム・なごみの里福田・文化交流センターに毎月本の入替展示を行い、活用を推進する。
読書推進事業	年5回	町民の読書意欲向上と図書館利用促進を図るイベントを行う。 ・読んでミッション (本を読んで謎解きにチャレンジ) ・たくさん読んで読書くじ (貸出冊数によりくじ引きを行う) ・TRYポプラディア(百科事典の使い方をクイズなどで学ぶ) ・運命の1冊(YESNOチャートで借りる本を決め、新たなジャンルの本と出会う)

		・読書講演会(読書に関する講演会・講習会の開催)
--	--	--------------------------

(2) 企画展示

展示名	実施日	実施内容
季節の絵本展	毎月1回	・年中行事、新地町の行事に関連する本や紙芝居の展示・貸出。
夏休みおすすめ本の展示	7月中旬～8月末	・課題図書・読書感想画(文)の書き方・俳句や理科研究の参考図書など、夏休みにおすすめの図書の展示・貸出。
閉架書庫資料展	2月中旬～3月中旬	・普段目に触れないが、ぜひ手にとって欲しい閉架書庫の資料の展示・貸出。
郷土資料展	11月中旬～12月末	・新地町出身者の著書、新地町のことが掲載されている図書の展示・貸出。
各種ランキング図書の展示	各賞発表後随時	・本屋大賞(4月発表)、芥川賞・直木賞(7・1月発表)、ミステリーランキング(12月発表)、2023年間ベストセラー(12月発表)、絵本屋さん大賞(1月発表)の展示・貸出。

(3) 図書館協議会関係

- * 図書館協議会及び選書会 5月下旬 図書館視聴覚室
- * 図書館協議会 2月下旬 図書館視聴覚室

(4) 図書館体験学習・視察・研修等受入

- * 職場体験
- * 図書館見学
- * 町たんけん

(5) ボランティア活動受入

- * 図書館ボランティア『スイミー』:読み聞かせ会(毎月第3土曜日・図書館まつり)及び高齢者施設への読み聞かせ訪問
- * 読書活動ボランティア『さくら』:各施設・校内図書館コーナーの図書準備・入替作業、図書館まつり等
- * 図書館まつりボランティア :茶道体験・バルーンアート・視聴覚コーナー等

(6) 出前講座等への職員派遣

- * 依頼により、館長及び司書が出前講座を行う。

(7) 蔵書点検

- * 特別整理期間を設け、全資料(約 84,000 冊)の状況とデータの確認・適正化、配架位置の改善、展示物の変更等を行う。(システム更新含む)(6月)

(8) オンラインサービス

* インターネットでの資料予約、福島県立図書館との受取館指定・遠隔地返却等の連携の充実

(9) 職員研修

* 専門研修や先進地視察等により、職員の資質向上を図る。

各種行事写真



駒ヶ嶺小学校夏休み特別個人貸出(移動図書館)



本を読んで謎解き



家庭教育学級 保護者への図書貸出(新地小学校)



秋の読書週間作品展示期間に来館(福田小学校)



文化交流センターにて(イベント協力)



図書館まつりで押し花工作

VIII 関係団体

■ 1 新地町文化協会(令和5年4月1日現在)

会 長	目黒 淳
副会長	角田 正悦
監 事	加藤 潤一
	水戸 修子
庶 務	伏見 よし子
	土屋 友利恵
会 計	穴戸 みのり

部 門	団 体 名	代 表 者	会 員 数 (名)
文 学	新地野ぶどう俳句会	斎藤 賢一	9
美 術	書 道	目黒美知子	10
	新地絵画クラブ	目黒 利彦	6
音 楽	コールしおさい	大和田初子	12
	ウイングポップス楽団(洋楽)	後藤 一茂	18
	鹿狼アルプホルン倶楽部	八巻 秀行	9
	オカリナしんち	寺島 博文	11
	アミーゴdeシンチ	目黒 淳	11
芸 能	新日本舞踊村井流新竜会	水戸 修子	9
	聖真会	林 真記子	15
	カラオケ・パンジー会	桑折 篤次	6
	日本舞踊裕月流	渡部 裕子	9
趣 味	新地町茶道愛好会	水戸 洋子	6
	新地町華道教授会	八巻 円	4
	パンフラワー・アトリエ夢羅	村畑 喜恵子	5
郷土史	新地町郷土史研究会	加藤 潤一	30
	子眉嶺神社	土屋友利恵	3
	高田神楽保存会	山内 和彦	休止
計	17団体		173名

■ 2 新地町スポーツ協会(令和5年7月1日現在)

会 長	林 浩徳	陸上クラブ
副会長	三宅 信幸	柔道会
理事長	中江 義昭	卓球クラブ
監 事	渡辺 祐吉	サッカー協会
	水戸 誠	パークゴルフ協会
顧 問	大堀 武	新地町長
事 務 局	木幡 邦枝	教育総務課長
	黒沢 知子	教育総務課副主幹兼課長補佐兼生涯学習係長
	野地 佑介	教育総務課生涯学習係
	林 重貴	教育総務課生涯学習係
	加藤 千夏	教育総務課生涯学習係
	吉田 竜彗	教育総務課生涯学習係

部門	団体名	代表者名	事務担当	会員数(名)
陸上	陸上クラブ	鈴木 健志	高口 雄太郎	23
球 技 等	新地野球リーグ	目黒 康平	早川 真也	95
	新地卓球クラブ	中江 義昭	齋藤 智英	60
	新地ゴルフクラブ	目黒 雅夫	鴫田 芳文	60
	新地町パークゴルフ協会	森 直人	水戸 誠	110
	新地町グラウンドゴルフ協会	横山 光男	早川 清	32
	新地町バドミントン協会	松谷 秀寿	阿部 勝也	75
	新地町インディアカ協会	渡部 正幸	早川 幸寿	45
	新地サッカー協会	水戸 俊一	加藤 伸也	29
武 道 等	新地町柔道会	林 和英	星 和也	10
	新地町剣友会	菅野 誠一	高野 宏一	12
	新地町空手協会	荒 司	柳澤 由美	10
登山	鹿狼・山の会	後藤 一茂	西牧 直	45
計	13団体			606名

■ 3 総合型地域スポーツクラブ(令和5年7月1日現在)

「チャレンジしんち」組織

三 役	会 長	早川 清
	副会長	目黒 巖・八巻 京子
運 営 委 員	広報・スポーツ・イベント担当	目黒 巖・工藤 憲治
	パークゴルフ担当	水戸 春生・小野フミ子
	ラージボール卓球担当	八巻 京子・加藤 吉光
	ウォーキング担当	水戸 誠・高橋トシイ
	スポーツ吹き矢担当	小賀坂義廣・藤原 道子
	懐メロをうたう会担当	村山 正之・門馬 純子
事務局	事務局長	小幡 仁子
監 事		田中 信康・菅野 孝雄

■ 4 新地町スポーツ少年団(令和5年7月1日現在)

本部長	水戸 洋一	(町剣道)
副本部長	荒 司	(町空手)
	黒脇 浩之	(町柔道)
	菅野 誠一	指導者代表(町剣道)
	藤 直哉	指導者代表(SKFBベースボールクラブ)
	佐藤 正美	指導者代表(尚英中野球部)
	荒 達也	指導者代表(新地ジュニアバスケ)
	梅津 直紀	指導者代表(尚英ガッツJVC)
	小泉 英明	指導者代表(新地ジュニアバレー)
	星 和也	指導者代表(町柔道)
	佐々木一幸	指導者代表(町空手)
	泉沢 誠	指導者代表(アステルFC)
	菊地 利行	育成会代表(町剣道)
	早川 幸寿	育成会代表(SKFBベースボールクラブ)
	新妻 一広	育成会代表(尚英中野球部)
	鎌倉 典子	育成会代表(新地ジュニアバスケ)

	坂元 真弓	育成会代表(尚英ガッツJVC)
	目黒まどか	育成会代表(新地ジュニアバレー)
	佐藤 孝広	育成会代表(町柔道)
	柳澤 由美	育成会代表(町空手)
	穂積 聡	育成会代表(アステルFC)
	林 浩徳	新地町スポーツ協会代表
	早川 清	総合型地域スポーツクラブ代表
	青田 祥一	福田小学校校長
監 事	安良 公広	尚英中学校校長
	荒 博史	新地小学校校長
幹 事	荒 達也	指導者代表(新地ジュニアバスケ)
	菅野 孝雄	スポーツ推進委員代表
顧 問	小賀坂義紀	PTA連絡協議会会長
	佐々木孝司	教育長
事務局	木幡 邦枝	教育総務課長
	黒沢 知子	教育総務課副主幹兼課長補佐兼生涯学習係長
	野地 佑介	教育総務課生涯学習係
	林 重貴	教育総務課生涯学習係
	加藤 千夏	教育総務課生涯学習係
	吉田 竜慧	教育総務課生涯学習係

種 目	チ ャーム 名	代表者名	団員数(名)
柔 道	新地町柔道	星 和也	19
剣 道	新地町剣道	菅野 誠一	3
野 球	SKFベースボールクラブ	藤 直哉	15
	尚英中野球部	佐藤 正美	12
バレーボール	新地ジュニアバレー	小泉 英明	8
	尚英ガッツJVC	梅津 直紀	10
サッカー	アステルFC	泉沢 誠	54
空 手	新地町空手	佐々木一幸	12
バスケットボール	新地ジュニアバスケ	荒 達也	13
7種目	9団体		146名

【福田十二神楽 巫女の舞】



IX 新地町教育の沿革

西暦	和 暦	事 項
1872	明治 5年 1月 5月24日 6月 8月 2日	仙台県は「宮城県」となり、新地はその管轄となる 谷地小屋村で共立学校「観海堂」の開校式(初代学長 氏家閑存) 駒ヶ嶺村で金竜院を借りて学校を設立 学制公布
1873	明治 6年 6月 2日 6月 4日	観海堂を「谷地小屋小学校」と改称、福田村に谷地小屋小学校東林寺支校の設置 「駒ヶ嶺小学校」と改称
1874	明治 7年 6月	谷地小屋小学校新築移転
1876	明治 9年 8月	福島県が誕生。福島県管轄となる
1878	明治11年 5月16日	福島県第26区第11番乙福田小学校開校式(教員5名、生徒49名)
1889	明治22年 4月	合併により福田村(旧福田村、埴木崎村、真弓村)、新地村(旧谷地小屋村、杉目村、小川村、大戸浜村、今泉村)、駒ヶ嶺村が誕生
1890	明治23年	新地貝塚の調査(若林勝邦)
1894	明治27年	三貫地貝塚の発見(館岡虎三)
1906	明治39年 1月	新地実業補習学校創立(現新地高校)、新地小学校に併置
1930	昭和 5年 2月28日	新地貝塚、国史跡指定
1947	昭和22年 4月 1日	福田村立福田小学校、新地村立新地小学校、駒ヶ嶺村立駒ヶ嶺小学校と改称。3村に新制中学校創立 県立新地高等学校と改称
1948	昭和23年 4月	教育委員会法制定 社会教育法制定 各村に公民館の設置
1954	昭和29年 8月20日	新地村誕生(旧福田村、新地村、駒ヶ嶺村)
1958	昭和33年	新地小学校建築(工事費1,700万円)
1960	昭和35年	駒ヶ嶺中学校完成
1965	昭和40年 2月19日 4月 1日 1月	新地小学校旧校舎焼失 尚英中学校開校(旧福田中、新地中、駒ヶ嶺中が統合) 新地小学校増築校舎完成(工事費1,200万円)
1966	昭和41年 4月19日	観海堂県史跡指定 駒ヶ嶺小学校焼失
1968	昭和43年12月10日	駒ヶ嶺小学校新校舎完成 三貫地貝塚県史跡指定
1969	昭和44年 1月 3月19日	尚英中学校新校舎完成 福田小学校新校舎落成式(工事費3,795万円) 新地小学校屋内運動場建設
1970	昭和45年 7月	村民プール(新地)完成 村民プール(福田)完成(工事費992万円)
1971	昭和46年 8月 1日	駒ヶ嶺小学校プール完成(工事費694万円) 町制施行
1972	昭和47年11月 2日	町制施行により新地町立小・中学校と改称
1977	昭和52年	町民プール完成
1978	昭和53年 9月24日	新地小学校創立百周年
1980	昭和55年 3月	福田小学校創立百周年
1982	昭和57年 2月 3月	駒ヶ嶺公民館建設(工事費1億1,200万円) 新地町史(資料編)発行 勤労青少年ホーム建設(工事費1億2,800万円)
1989	平成元年	史跡の町づくり基本計画策定 新地町奨学資金貸付制度始まる
1991	平成 3年 8月	新地小学校改築落成(14億9,000万円) ALT配置
1993	平成 5年 3月26日 3月	福田十二神楽県指定重要無形民俗文化財 新地町史(自然民俗編)発行
1995	平成 7年	観海堂解体復元(工事費4,923万円)

1997	平成 9年 3月 4月	白幡の銀杏・県指定天然記念物(樹齢約240年) 新地町立図書館開館(工事費6億3,600万円)
1998	平成10年 4月	尚英中学校新校舎(工事費21億5,000万円)使用開始
1999	平成11年 3月	新地町史(歴史編)発行
2001	平成13年 3月	新地町総合体育館完成(工事費17億円) 駒ヶ嶺小学校校舎完成(工事費20億5,000万円)
2003	平成15年 10月22日	新地町公民館(優良公民館)文部科学大臣表彰 町民野球場完成(工事費4億5,700万円) 陸上競技場完成(工事費2億3,500万円) 生涯学習フェスティバル開始
2004	平成16年 4月20日 7月 8月	藤崎大般若経・町有形文化財指定 新地町男女共同参画プラン策定 TRY塾(中学生対象)開始
2005	平成17年 7月	ハローイングリッシュ教室開始(5,6年生対象)
2006	平成18年	総合公園、子どもの森完成(工事費2億1,000万円)
2007	平成19年 3月	「新地町の文化財」小冊子発行 英検教室、小学校3校交流授業開始
2008	平成20年	教育行政の外部評価開始
2009	平成21年 4月23日	町図書館「子供読書活動優秀実践図書館」文部科学大臣表彰 ICT環境整備事業完成(事業費4,800万円) 理科教育設備の整備完了(~平成21年 事業費1,000万円)
2010	平成22年 4月 4月23日 6月 12月27日	学習支援員小中全校配置 福田小学校「子供読書活動優秀実践校」文部科学大臣表彰 福田小学校耐震補強・大規模改修校舎屋体完成(3億3,000万円) 総務省「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」採択(3小学校)
2011	平成23年 2月 3月11日 8月30日	ICT支援員配置(3小学校) 東日本大震災(津波により観海堂が全壊流失) 総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」採択(尚英中)
2012	平成24年 1月27日 2月10日 2月 4月 9月 9日 9月30日 11月16日	第1回新地町ICT活用発表会(新地町内3小学校) 楽器贈呈式 & 記念コンサート(シチズンウオッチイタリア、シチズンウオッチヨーロッパ) 「コカ・コーラ 復興支援基金」による太陽光発電および蓄電池の町内全校設置 心のサポーター配置(小中全校) 町内各学校への介助員の配置 新地町立小中学校太陽光発電システム竣工セレモニー 宝くじスポーツフェア「ドリームベースボール」開催 第2回新地町ICT活用発表会(新地小学校・尚英中学校)
2013	平成25年 7月18日 7月23日 7月29日 8月 8日 9月18日 11月19日	越生町中学生との交流事業(越生中学校生徒30名尚英中訪問) ふくしまっ子応援プロジェクト 大分県(小学生30名参加) 東北青少年音楽交流会(新地町総合体育館) 滋賀県竜王町交流事業(児童12名参加) 第3回新地町ICT活用発表会(駒ヶ嶺小学校・尚英中学校) 新地小学校父母と教師の会 公益社団法人 日本PTA全国協議会表彰
2014	平成26年 2月28日 4月 5日 4月11日 4月23日 7月29日 10月 6日 11月14日	家庭学習用問題集 小学生の知恵袋「ち・か・ら」完成 全児童に配付(5/27) 「ことばはこころの鏡」パンフレット町内全世帯配付 文部科学省「平成26年度スーパー食育スクール事業」指定 新地町読書活動ボランティア 文部科学大臣表彰 福田町民プール完成(1億7,807万円) 総務省「先導的教育システム実証事業」及び文部科学省「先導的な教育体制構築事業」採択 第4回新地町ICT活用発表会(駒ヶ嶺小学校・尚英中学校)
2015	平成27年 4月14日 8月 1日 11月 7日 11月18日	文部科学省「平成27年度スーパー食育スクール事業」指定 和歌山県上富田町交流事業~8/9(児童3名参加) オリンピックムーブズ(尚英中学校)東京オリンピック・パラリンピック組織委員会等主催 第5回新地町ICT活用発表会(町内全4校)

2016	平成28年	11月18日	福田小学校父母と教師の会 文部科学大臣表彰
		12月1日	駒ヶ嶺小学校「第48回花いっぱいコンクール」県教育長賞受賞
		3月7日	新地小学校十七字のふれあい学校賞受賞(相双教育事務所管内)
		4月1日	総務省「先導的教育システム実証事業」及び文部科学省「先導的な教育体制構築事業」継続
2017	平成29年	7月9日	尚英中学校日産財団「第4回理科教育賞」受賞
		7月22日	平成28年度福岡・大分交流授業～7/26(町内児童18名参加)
		8月14日	学校情報化先進地域認定:日本教育工学協会
		11月18日	第6回新地町ICT活用発表会(町内全4校)
		3月7日	ICT地域活性化大賞奨励賞(総務省))
		3月9日	新地小学校十七字のふれあい学校賞受賞(相双教育事務所管内)
		6月1日	文部科学省「つながる食育推進事業」指定 ※モデル校 新地小学校
2018	平成30年	7月22日	平成29年度福岡・大分交流授業(児童18名参加)
		10月22日	駒ヶ嶺小学校「全国花のまちづくりコンクール」農林水産大臣賞受賞
		10月23日	福田小学校:時事通信社「教育奨励賞」努力賞受賞
		11月1日	駒ヶ嶺小学校教師と父母の会「社会教育功労顕著な団体」表彰
		11月1日	福島県学校給食会「福島県教育委員会教育長賞」受賞
		11月16日	第7回新地町ICT活用発表会(町内全4校)
		11月24日	新地小学校父母と教師の会 文部科学大臣表彰
		2月7日	福島県教育委員会優秀教員表彰 尚英中学校 渡邊順子養護教諭
		2月7日	新地小学校「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」体力・食育推進2部門受賞
		3月9日	尚英中学校:十七字のふれあい学校賞受賞
		4月21日	新地小学校「子どもの読書活動」文部科学大臣賞
2019	平成31年	6月1日	平成30年度「情報通信月間」東北総合通信局長表彰(総務省)
		6月5日	文部科学省「つながる食育推進事業」指定(2年目) ※モデル校新地小学校
		6月10日	駒ヶ嶺小学校緑の少年団:第69回全国植樹祭参加(南相馬市)
		11月2日	福田小学校:福島県統計グラフコンクール奨励学校賞受賞
		11月4日	駒ヶ嶺小学校:「第49回花いっぱいコンクール」県知事賞受賞
		11月14日	第8回ICT活用発表会(町内全4校)
		1月21日	ふくしま地産地消大賞優秀賞受賞 ※県内教育委員会では初
		4月26日	駒ヶ嶺小学校:「緑化推進運動功労者」内閣総理大臣賞受賞
		4月26日	新地駅前フットサル場オープン(事業費1億8,700万円)
		令和元年11月11日	租税教育推進感謝状受賞
2020	令和2年	11月13日	第9回ICT活用発表会(町内全4校)
		5月21日	日本ICT教育アワード賞受賞
		8月1日	新地町文化交流センター開館(事業費14億2,300万円)
2021	令和3年	11月13日	第10回ICT活用発表会(町内全4校)
		2月13日	福島県沖地震発生(M7.3 最大震度6強 新地町6強)
		8月1日	町制施行50周年(8月1日)
2022	令和4年	11月12日	第11回ICT活用発表会(町内全4校)
		3月1日	駒ヶ嶺公民館開館(事業費4億9,500万円)
		3月16日	福島県沖地震発生(M7.4 最大震度6強 新地町6弱)
		11月11日	第12回ICT活用発表会(町内全4校)
2023	令和5年	11月17日	福島県町村教育長協議会研修大会浜大会開催(～18日) (於:新地町文化交流センター)
		11月18日	駒ヶ嶺小学校:日本PTA全国協議会「優良PTA文部科学大臣表彰」
		4月1日	創立150周年記念事業(新地小、駒ヶ嶺小)

【最近の実践から】



【JAPEXの皆さんが
参画してのエネルギー学習
(液体窒素の性質を知る)】

【福島イノベーション・コースト
構想推進機構の皆さんによる
プログラミング出前授業】



【福島民報の皆さんによる
新聞出前授業】

【東京大学の皆さん
との交流授業】



〈 表 紙 の 写 真 に つ い て 〉

福田十二神楽

福田地区諏訪神社に伝わる法印系の神楽。出雲地方の流れを組み、日本の記紀神話に基づいているのが特徴。平成5年3月26日に福島県の重要無形民俗文化財に指定。

元来、福田地区の8歳から12歳までの長男が神楽師として選出され、7年を1期として勤める。22代目まで存続していたが、現在は担い手不足から代は止まっている。

福田十二神楽保存会では、福田小学校の協力を得る事で、授業に神楽を取り込む事で継承を続けている。また、元々女性の演目が無いため、女性専用の巫女の舞を取り入れるなど工夫を行っている。



新地町教育委員会

- 教育総務課
〒979-2792 福島県相馬郡新地町谷地小屋字樋掛田30番地
TEL:0244-62-4477 FAX:0244-62-2369
E-mail: kyoiku@town.shinchi.lg.jp
- 新地公民館
〒979-2702 福島県相馬郡新地町谷地小屋字樋掛田40番地の1
TEL:0244-62-2085 FAX:0244-62-2172
E-mail: s-koumin@town.shinchi.lg.jp
- 図書館
〒979-2702 福島県相馬郡新地町谷地小屋字樋掛田40番地の1
TEL:0244-62-5031 FAX:0244-62-2598
E-mail: library@town.shinchi.lg.jp
URL: <http://library.shinchi-town.jp>
- 文化交流センター
〒979-2709 福島県相馬郡新地町駅前一丁目3番地
TEL:0244-32-1301 FAX:0244-32-1302
E-mail: shinchikoryu@an.wakwak.com

